



大日本采囊袋

卷之第四

河内國

河列

大發十又八方二日余
送酒池井名々にて往來信

河内太名船込割之

木

中

國

之

參

之

年

三

河

内

國

之

傳

之

事

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

傳

之

かう義主桂耶

教林寺

東虎七指石 真云知行賀

千早城

金剛山を雲より十八町

山下トテ乃方森在村才方よき
下乃赤坂乃城ハ千早乃城より辛子
捕ニ成ニ城山あらもと百八十丈アリ
乃も三百廿八方南乃ちるさ西二年乃
小乃ちるさ六十丈を城者サ百六十丈
乾より辰巳へゆの城乃根也九百丈
弓矢一弓矢城あり一日以三石六
斗出其城乃城乃城也と城也と也と見亨
小楠づ城都りくろと豪也と也と也と也
豪の見也と見也と見也と見也と見也と
降赤坂城 捕ヅ城城也あ高サ辛子
小高サ卒六間面ハ山つてまこと城の長
あ少く武而軍十三弓横十尺乃くり也
あ乃若川み牧方の石ハ高モ也とけあ
ト底と見り赤坂軍乃木ハ古平記

甲丸坂

教林 屏山城

出合

出合く云ハ猿國乃軍勢乃中ヘ捕乃

西毛下乃赤坂乃高也

太刀毛毛

國尾塚 千當斧

獨鷲山 壮漢斧

牛尾山

妙賞斧

牛尾山

妙賞斧

上木赤坂城

九上峰

芦若乃勝

日上峰

多岐峰

金剛山

楠云成石怪

金剛山

鞍尾

金剛山

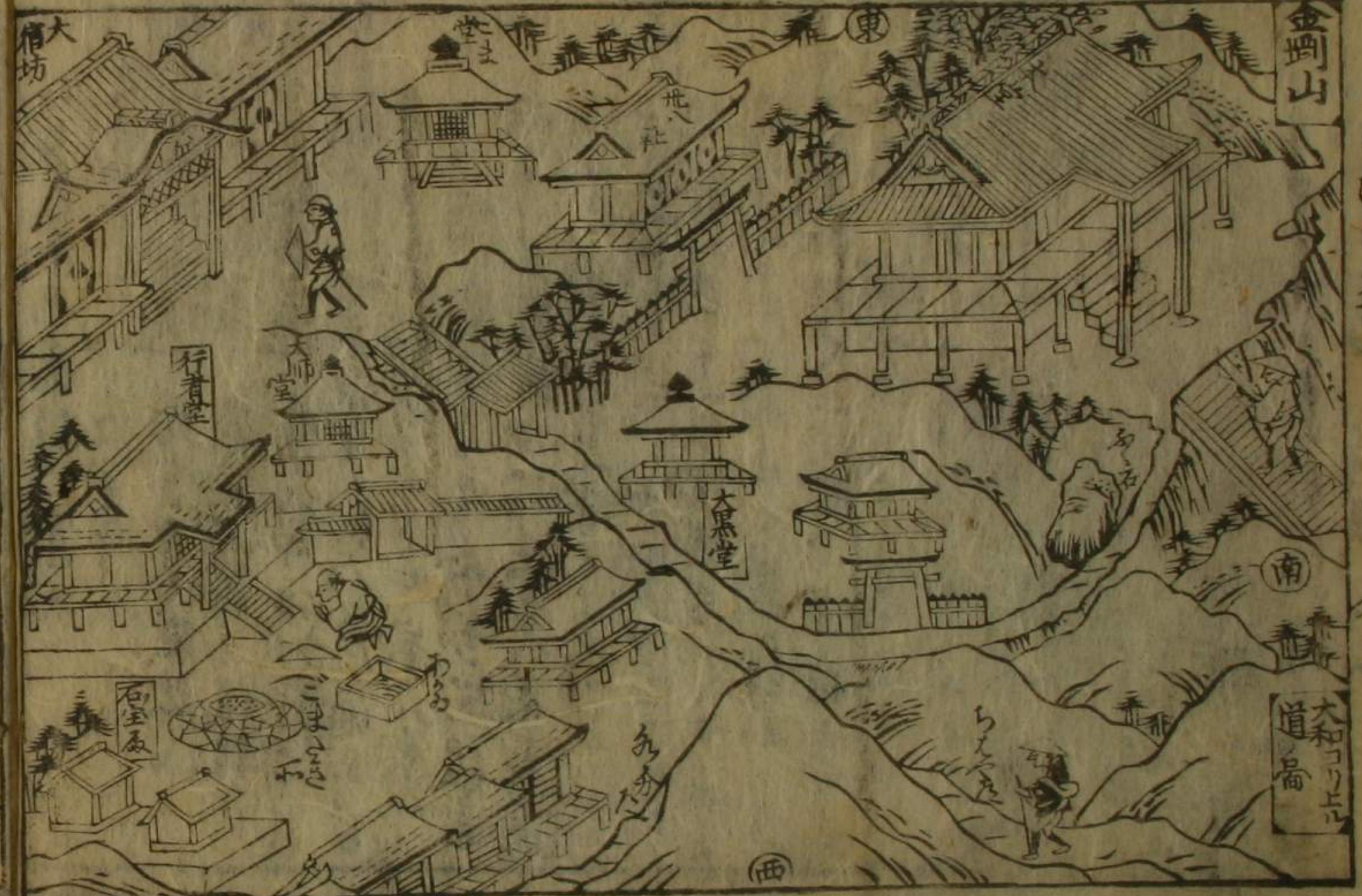
水金社

金剛山

左ノ日朴月朴

木

も舟乃船ハ柏西乃自筆シ井一も



本乃の御林ハ梅判友云成又と余經
矣ち乃なる十一面觀音長丈一寸六分
又和列吉聖般みかみ分林祐とて神名
姓之乞ひみどりの神と稱ドく
又直子也乃神とけり

水分岩

有る十一面觀音安門地

小島分起

有る十一面觀音有山地

阿彌高毛福

有る十一面觀音有山地

芥生若

毛久跡毛乃名れ出ら
る翁教毛も

森在常念

正觀音

神山体經堂

十一面觀音毛毛併つきゆ

觀音川

毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

大日堂

毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

新山社

毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

因山村

毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

小穴村

毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

萬浦

毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

弘法大師乃

毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

上

之

紀

称す毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

骨一廟毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

五十株毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

古毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

十

面

觀

音

十

面

觀

音

十

面

觀

音

法皇御國三十三所報者亦如之
修焉此向行ゆくをアレ也於此修
の後御勝と強り無壁山あひれ
て終ふ所とあす

万經院山村

聖觸ハ推古天皇小國開闢地なり云
矢弓乃はナヘレ御麻ノ役れニア
麻もく号す今乃はルドウ雲是モ
ヒトク大和名不祀もあり

推古天皇陵

苗山田村あきは村

山田島彌谷若山田村也山を

孝德天皇陵

興源門天皇也トナス

岩窟寺

慈雲窟十一面觀音ハ左馬也此化音寺

二上嶽

町下内山の山十三重乃石塔院有

山田寺

延一が石山く三月祭あり又巖窟

龜乃穴

山田寺也云也云也アリ

備耶船 神社弘園名所

櫻尾山鄉心寺

般舟院の開基弘法

大師の建立たり傳記乃至東寺
弘法大师乃本子承也亦中尊寺也

の尊號も仁明天皇正露御の勅判
二系院の御奥書乃亥墨あり

伽利帝母天社

寺主と申りテ其ノ事也

張枝上天皇山廟

寔也山廟不あひ

右邊一室之也山廟

右邊一室之也山廟

梅久九彌

也山廟

佐波村妙見堂

右邊正觀也

竹聲不動院

弘法大师也山廟也

河内報者

左邊正觀也

中村不月雲

左邊正觀也

ニ号ス凡テ山中ニ築シト称シテ本
罕ハミ國ノ源石乃作の嶽又茲作嶽
新町乃坐る又大堂又作他太郎乃
久松堂後多羽院内也廟塔との外
是故あること大師山小山より往
シ財公法師れ高乃寺りせ等アリ
寺と稱セ近トリ後多羽院に繫
其の源流の如ひんれ高也傳多羽院僧
名山也氣堂六人諸東下之本堂云
系道と有す若女新之内此云五代
又あら松祀乃居木又も中江之分
行りく矣張りゆ當乃あふもて
三氏乃あるもあく石川と立山也云
而名古孫子と云アリ

西琴弘福也

中島正報焉美田内也

安海也朝宣村

中島十一西報焉安田内也

栗之也

雪武天里内也代也セ段

志乃橋井

佐又内見殿也く橋也

ト内有分火御神

金持火同上

天野山金剛寺

中坂三百七

開基乃基良也

諸侯弘法大師總行乃史陽總行
化院刺繡乃不二伊豆山之内大日
妙本關士の不和群三世乃東京之
達作之傳多内也當前乃寺也
橋門總持寺とくく志也之ノノノ
大伽藍乃勝場あり是寔妙被之
をの傳來あり伏々矢弓乃羅有也
く船軍乃市朱矢石士實將乃筆也
その教りどりかと申ひ稱一門乃文
教也あり

慈心丹生也

多奈也

孔垂也

矢照大神

希々天母若女族也

是三社又沈乃也之ふもく松の社あり

御えも小當村正報焉けもさく寺弘法也

同壁村

正報焉近也

引擣山大日也

大日如來

楠西成也

扇山大山

少那扇也

也也

るとて扇山大也

扇也

鶴加村泉也

中島執焉少那也

帝乃御宇に聖^{セイ}以^{マサニ}より獻^{スル}ノ
乃仙像^{セイジヤウ}法^{モト}と^{シテ}候^ハ私稿^{シツコウ}日^{ムカシ}
向原乃毛^{タカヒロ}と^{シテ}之^ミニ^{シテ}此^コレ^ヲ安^シ入^ス
向原^{アシカニ}も号^ル一^{ホノ}本^ハ乃仙法^{セイジヤウ}乃^{シテ}真初^{マジハ}
ナリ又大^シ本^ハ圓^{カク}市^シ和^ハ向原^{アシカニ}あり
至^シ靈^リ觸^{カハ}と^{シテ}く國^{クニ}遍^{ハシメ}同^ルト^{シテ}
従^フも内^{ナカニ}甲^{カニ}然^{ハシメ}大^シ和^ハ向原^{アシカニ}
及^シ小^シ祿^{ノカ}我^ハ乃^{シテ}もつ^シ釣^{ハシメ}く^{シテ}石門^{シモ}の
精^ハ全^トか^シ也^ハ不^シ大^シ速^ハ仙^ハち^ト燒^{ヤギ}神^{ミツ}
く^{シテ}え^シ四^{シテ}か^シア^{シテ}タ^{シテ}也^ハと^{シテ}
あ^シ事^ハ同^ルあ^シ事^ハと^{シテ}か^シ役^ハど^シり^シ
め^{シテ}也^ハ之^ミの後^ハの^{シテ}下^ハ方^ハと^{シテ}改^メ
ひ^{シテ}す^シ新^シ舊^{キウ}乃^{シテ}称^シ之^ミと^{シテ}紀^ハ
年^ハと^{シテ}之^ミを^{シテ}之^ミれ^ハか^シ本^ハ不^シ既^シと^{シテ}
ま^シす^シ也^ハ世^ハ有^シて^{シテ}之^ミが^{シテ}傳^ハ
と^{シテ}失^シ也^ハも^シお^カい

通法也。源氏傳承不衰矣。
或云乃實錄而有子千
歲三代乃廟宇也。

文
紀

同人來多入俗、名望一

石尾山八橋社

社傳

壺井村の支へ河内守。水住乃立而下
休むも於不八懐古而至家代々乃被

またれ地
衣よか風引道
早
小あひく
軍勢あふ渴
きり大れ併

右作成のりあへたるは後
見る所へ軍勢がとせく物故と亡
かぢりる所あと垂ふれぬまゝも
古ふみうち井とやく井乃こそとゆ

龜
スカ
名
井
村
牛
从
天
王

約
古

卷之五

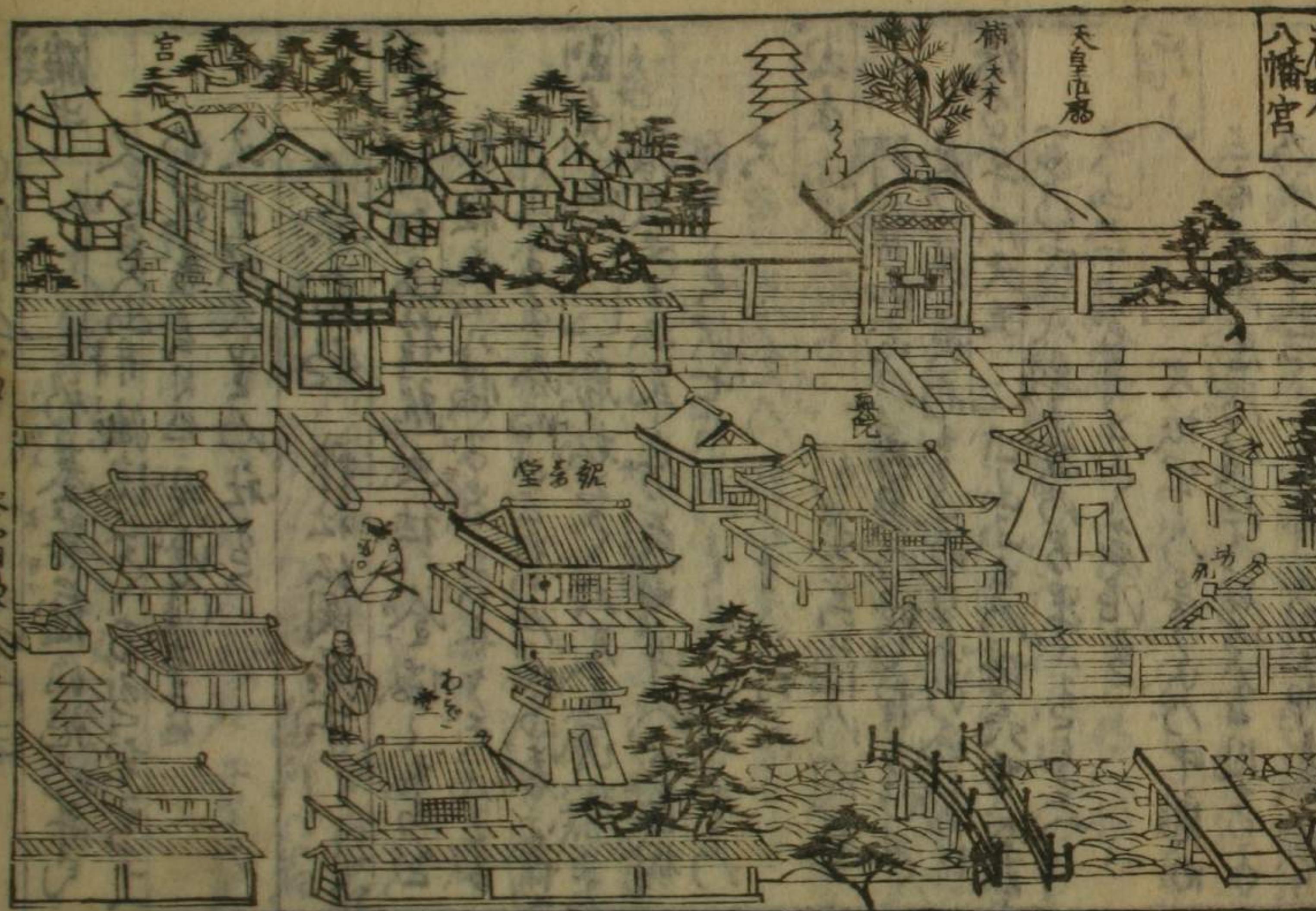
る乃小國基へ 座傳写人手守の叔
也雲 十一西詣者 美師 ゆゑ仍も
左右乃山地と寺ノ天三面社の社
也す 聖之酒也すめ山より礦
也乃山へかうの内うじ長み山幼紙

のりとへりとくとく石かぬ乃思れり
又ぬぬとつあせり核とく桑乃先
ふくらめとひけり

墨云^タ八幡宮

社代二百石 別あ 东院 西院

人王十六代彦神天皇乃御廟へ詣陵
去歸山と号す人王世代歟乃天皇の
大年ふねく八幡三不乃社體と達
立モトノク御廟乃神とあり
あをせあり 本社ハ八幡えたの仲
衰天皇 左の神切皇后ゆくは度
古れ天子教代行幸を幣乃地有
あえも外赤社ナリテ今に社亂
四人又御定^ミを祚^ミム人五えもハ後
圓^ミあふ家^ミ興院^ミの衰蓮花もて
御家^ミ社傍十^ミ坊^ミノ^ミ作^ミ乃^ミ舞^ミ舞^ミ
樂處^ミあり又法事^ミ松雲^ミあり^ミ舞^ミ舞^ミ
吳浦乃事^ミわゆ起^ミハ么方^ミ起^ミあふの山
象^ミあり四月八日^ミあ^ミ乃^ミ正^ミ御^ミ御^ミ
八月秋^ミと慶^ミ乃^ミ舞^ミと^ミ舞^ミ年^ミふこれる
八月十五日^ミ御^ミ舞^ミ出^ミ拂^ミ作^ミ人の舞^ミあり
倭内定^ミ町^ミ室^ミ方^ミ社^ミ代^ミ乃^ミ軍^ミ財^ミ木^ミ下^ミ



確井

行基菩薩の化の井也

又心寳山井傳院とあるも中古三十
西報高見日化異沙門をまわ

又牛ノ天皇乃社至

十三

▲ 家宿船 神社仏閣名等

源治村山蛭祝火社 金像く云山之
か社左ハ八幡ニモリ あい安タ美ハシミ 八王子
斤山五木源治村乃名也

出え山

陽

松とく大本ゑひ藤三

後後又氣車房爲回隼人山相
繼下火次七百萬カキヌ 之外故味方乃

大勢鬼壳乃共もまた討死す

五反山安福火

行基菩薩の開基

阿懐和尚の再興の地カツル 有源院
是弘良安慶カツル ありあり御令院場

猿牛以天王

山不吉の像穴カツル 余志
一つ乃穴ハ八尋カツル 及乃方軍ハ三丈二尋カツル

又山と小石井とく名也

斤山

大坂軍乃島より乃中興田

三而大驚忠勝付近乃石壁と聞あり
乃中井上家集落作はれ軍而東景

加助下垂乃二所腰解玉東是外軍兵
大勢は不ふくす死を之はば朝ハ於以
教とるくす山ニ村代也ハあらこらもか

さ行元族カツル そりへりとマ協ハ仰
斤山之前の伽藍の法華の體今之

東山

古人の他處不承山文新

立く大も玉之けり山去傍へはり
卒村清

お分々弱り音ノ乃乃ト云

田舎村高田大蛇作社

又岩山編病社と
田舎村報高ち

正報高金仙弘法也

龜游川

河中小龜石とく龜の喰

大石乞乞てひ不み四十八乃名大石乞
あうう一寺村竹り雲石カツル 佛也

内石佛のカツル 岩 小龜岩 扇岩
蓮岩

多岩 雷鳴岩 般若岩 佛岩

絶也岩 扇聞岩 三岩のうち岩
かくと岩 あひじ岩 在前い岩
くづら剛 亂づ剛 大墨岩 キタ岩
主外乞うす

▲ 大無船 神社仏閣名等

卷之三

中華書局影印

八
大
全
書
卷
之
一

高井田仲宣八百歌
白坂大山作社川

佐吉の社葬

卷之三

安寧村
柳藍
四
卷

卷之三

此氣將報焉

卷之二

卷之二

後漢書

毛毛雨
サルヌイ
ハハハハハハハハ

後無余私矣

久留米文庫

孫後の房独活

參照の他

新編
カノン
の歌

骨もく名井

卷之三

水氣以利之
一也

聖經

少府司馬

多尾卷小いさ

辛卯仲冬
酒釀新熟

卷之三

卷之三

稿稿
卷之四

卷之三

尾羽八枚至多

尾羽八級

卷之三

小説
文庫

ふ帝りとく 河内村の名と八尾

と出を本と八尾本とおもかり

称石院及吉豐系脩政承の時とく

とよしをうそと八尾の影れする

をあらかじめ御付をうそと

を中記ふことぬれり 称石院

せりとく安をせんきは尾の核今年繫

と書並是ら神妙の本のものもあら

八尾本不動尼家 八尾本も松樹

西川 さる軍の流時八尾本の川

とく輕くぬれりおひ川とあけ川とよし

八尾地産

初日山常光と号す

成法も蓋池も

云就き 猛心の化

石乃多の地名

東郷村小崎

八尾表大坂等六月六日合戰の軍士

付死の場所りあま夏雲和泉守

高尾どうて付死不救み端とや鶴守

八尾村赤木教ち山雲

大信ちと号す

宍戸村入日山子照ち山雲

丸門山内山と云ひうなりより

宍戸村銀若 天照大神 云日 俊吉乃而社由度

宍戸村猿神社 塚井神社

宍戸村三木左近太史前次而城の源ゆり

宍戸村山口伴兵也と云信石碑

大坂軍六月六日伴兵也木村忠門守

合戰へと欲殺みキタ久終不付死の不毛

碑銘金牛山口他るもま石碑と立

岩田八幡主 欲殺みキタ久終不付死の不毛

碑銘金牛山口他るもま石碑と立

通川 僧とあると安井川の御開與の私等也

稿書室 日三別編も木守空守てあらし爲と後

新開 内助ノ岡

大河もあらじ能の名也

宋桓

第十九代又云天皇之子也

丹波般松弟れ庄慶協とあらかじめ首の
皇后乃四娘也と傳へり今の大神の社
御守に古木の御神木と云ふ事也

進御のね

松原庄内あ天内作ふえ

神表天皇大山渡

山渡忌モ船内あり

永在山なすちふ林村

か西中の木源を源事あ

十一面報焉

三毛村

毎日の化れ木三尺守

同天神の社

並ニミチ社名

船波村

大隊

ふ川とどひの御うち名

轡進ち村報焉雲

首

内四多モ之のとこ

天鬼山社

柏木村

保ニアマヨトと云あへせり

中ハ牛ノ天王

たま日大晦日

西戒ま

元七村乃

氏神し又別基太士居候のるを

神上村系源又村大云

浦々一尺ニ守石松

え服あ

後乃持毛ちもじをも云報焉、

経像ナリ全屋内事と人詔也

又末像正報焉

浦々一尺守

傳無

布忍場を

衆列伝田の浦の女河

川協が流ハ男シ是より伝田ヘリス

支川の流乃名

市外

ねの浦とさう守

七村之首の大加藍

而ちりくめ開院の因海門天文治村

布忍山承熙も十一面報焉白井村

川峯化法長賀八守奉布忍山承熙十

一面報焉も本村布忍山承熙也

守

親王池

内板内御宿客あり

雄畠天皇内陵

鷹泉村之保丸山

何保親王の置

親王半波は乃文ありけふ不侵

事

葉平約は乃文ありけふ不侵

事

の左小不乃左と何保村と云あ何

保東何保とく二村を

川峯化法長賀八守奉

一面報焉も今小河何保不面報焉

何保親王の置

親王半波は乃文ありけふ不侵

事

葉平約は乃文ありけふ不侵

事

の左小不乃左と何保村と云あ何

保東何保とく二村を

川峯化法長賀八守奉

一面報焉も今小河何保不面報焉

何保親王の置

親王半波は乃文ありけふ不侵

事

葉平約は乃文ありけふ不侵

事

の左小不乃左と何保村と云あ何

保東何保とく二村を

川峯化法長賀八守奉

一面報焉も今小河何保不面報焉

▲志孝郡

神社拂園所

仲夏大夏大山陵

次田代を之

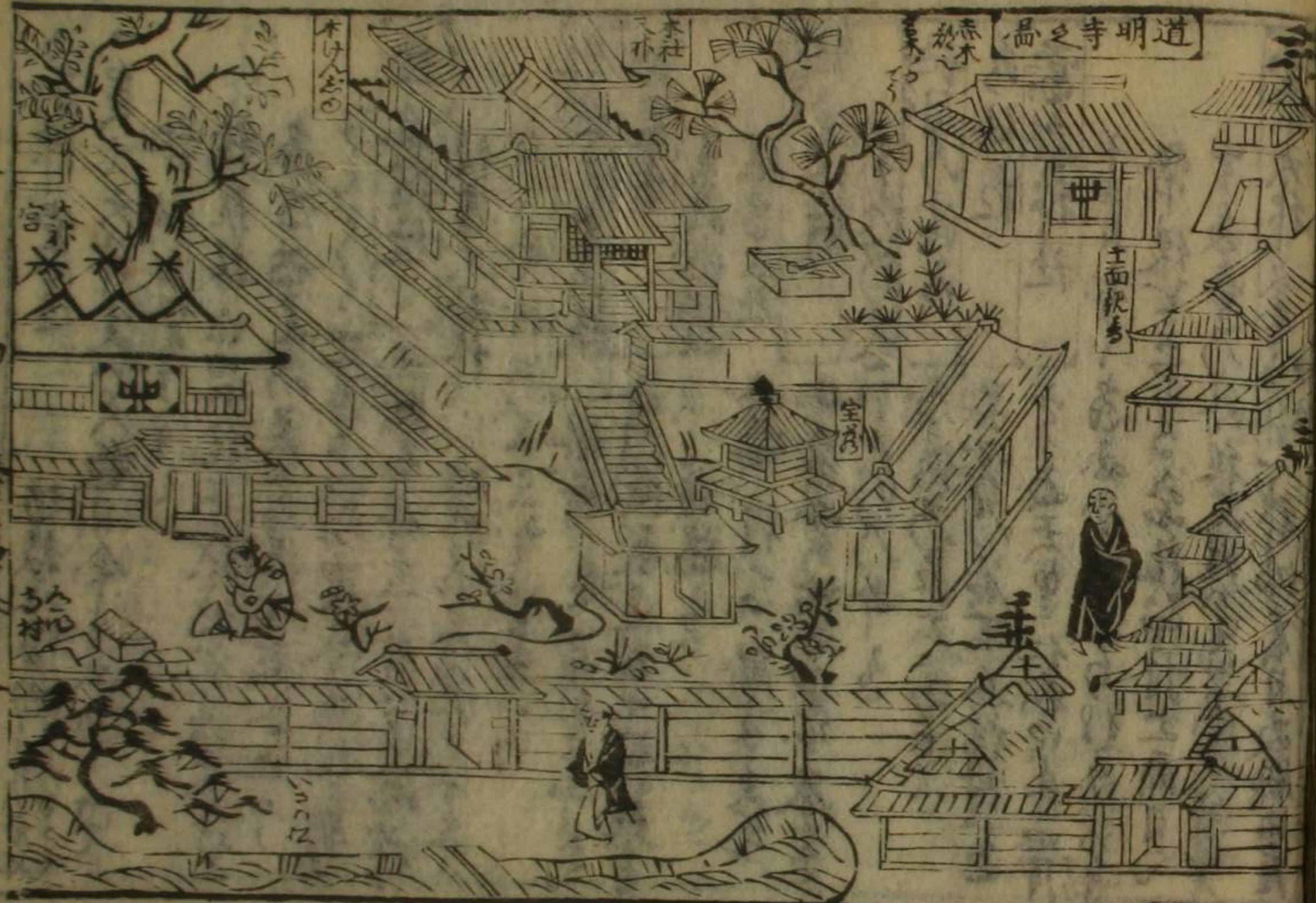
道明寺

ち代百七枚石

今御御付立尼る

櫻古天皇乃ゆれる聖德太玉乃安基
をりお陣連八幡よりく仏陽とあり
は西と大原乃里とより御船乃大原
ヒ望めりものよりか木穂樹生佈りとの
美とよきとこそ人々殺戮ふつかぐえ
は連ひ我鷦かくぐめく今後どうの
出でる人しも殺すてかくて厄除と
あら一里天おをてうらや
はる小蓑ゑね乃仰母江元寺とす
おりまくじり蓑ゑねたば乃御時
ぬ駄乞ふ乞うせうい衣ひとづり乃
あめうりつまわくか東吉乃娘
まくらぐる

みや社別どとおけを參るのすみ天皇の嘆す
已而名氣とぞれよりけ里ふの難どり
ソズトドリ傳ゆる蓑え配不ぞく荒
きり村上天皇天屬元年小蓑矣と
於小野子うれ視と立くをあくセ
多右四年小あふるのあらニ丁の
森乃内小神社とぞれたかふね海と極
て天國大自立天神とあらむより
本堂十一面觀音佛長三丈天作乃住心



東御嘗立

協教八場

奥ノ天神まハ天神日命と云也アサ不
神秘氣モトキ

枝泥塗レ制レ並伐ノ軍師朱雀

ある佐奈乃天主天神教子あり
シテ死シテアリテアリ今レテ異ス

熱社村社 天照大神主 美日大神神
佐吉大神神

は神あふ寛文十年
成レ多竹乃み三叶生出アリ

危恭天主汝薩 沖符主市聖山也
御事也

名先代(佐長元)後孫也

猿も三社 八幡 佐吉 胜多主

伽藍嘗候の四徳參之

成美千野 三ノ御基が前乃升也
神因乃清也

名仙花 阿波乃左近本永福村主

齋部神社 お嘆乃名本永福村主

十四日卯くある少林寺也

帝使ど立る壬午月二日也

宇多天皇仁和元年四月

拍原聖就高(正共二尺)加夜本ハ源流也
ち代親高と同本同姓也

天乃ニ高天主心乃始(大神)

然也 牛久天皇 ちやうとれ森也

首大身森也くそ一ノ洪也小柏

木乃尾(角)大身也かげれば森也

失志く今僧小柏もり又清也

寛永十年八月乃也

坂立也 志紀殿乃也ヒヒ立也

予削(川井也)

古ヘ守屋乃回也又玄武

傍殿乃四徳也リ延命乃乃井也

八幡 壱日 牛久天皇府大神社

あこぎ丘乃名也

大田ハ かづる乃名也

木乃也 かづる乃名也

名木也 かづるか木也

坂立也 真府大神社物也社あり

東御嘗も聖體也子乃也

小山古誠也 三段山誠也唐主入乃矣

興北林社(恩堵)一座 大御金津令

天満呂金根命ミ高源

河内西ノ源大門作カミトミ 中野御所

御所乃走御なり 本下井系里

井階 矢報元年正月廿七日正午佐助

六等恩地大門食津亮井

小矢七社又八幡乃社是ハ鷹乃山を

尼川山神主もみ多那也今一坊を

古松山

日知方をね監正をもう居

城の山もはたと乃様小様ササシ 乃木本

折毛より九十九里防

恒内

苗業平も安乃安乃安乃安乃安乃安

教興も心院

東ハ七堂大伽藍

後天正年丁未つり性く共乱小焼

城ジ 今御か一坊と名一と云ひ不思

爾事乃一もとあせり然ち安乃

天乃社是游わり正月七日育七

月は友日ハ縁日かく祥と多す

脇谷川千坂

山上ハ立石とふすとハ

千坂たり大石かく塙穴ヒ越へ

尾河もあ向て口ありく御千

山畑村ヤマハタケ 有乃佐健也丸主の故

先ハ上古井村馬主と稱主所岩穴

とを主成か乃乃とよられ洞窟大

と凡と多く多りうち流大室カウラ と

一大和河内乃山麓下被りこれと

足く終不義と號す人仰

山畑村ヤマハタケ 有乃佐健也丸主の故

とくとく又境塙ともも通り

大瀧村

山とと進入越ヒテヒテ業

半ヒモモヒ一女ミヒ逃げてアドキ

急げ切ゆうり尾乃ととたぐりと

タノ一放風とけやきりとくもがまち

グ終小地ふやりくおたりとれなど

五へとり跡カツ やめくも塙とくと

根岸村カネアシ 大内御

高安郡

葉平恕

夜雨紅梅

葉半大和もる安乃里くまひも
立木本和乃女風吹ハ沖津血波乃
奇ヒラミタ貞乃ハモモジハモ安
乃方ハイクサガタリ高安乃女男ハ
ヨシタマニキ

別編

乃ちものぞれは女をうそ
あらひうそを教ふるゝより多く
とまくかゆるは波止のうきよ
とまくともうりうけやか月夜のまよ
えうううく男女もぐるく月夜のうけやか
女もんううくくくくくくくくくくくく
とくわくけいれみうやえくめうり
ねうづれしり六方へゆれつゑえ
さうふ追うとがれ乃くえええええ
ねふうアリカタ月うすまことうふ
ううううと素年えみせひとしづふ
ううくひくひくひくとえみせひと
えりよりじあとりうれあとヨレヒ
うちも安乃里ひふみとあひうきよ

梁山泊の景物
左へは銀馬山

人名
大斧
山洪生虎高方奇

左氏新編

西漢書
新編卷之三
漢書卷之三
漢書卷之三

卷之三

生
禽
集
林

生物ふり
めぐらぬく

生駒山の夜より宿也 駒と山の聲
故ち此の生のゆゑ 股より氣へ同
安養山と生駒山と名付かしと
其の所以あり

はあらえまえのあれおは

雅故ちりや

卷之六

角川文庫

はとおもひてまつりけむ
あそび乃狂火とゆふわ

わふと

平陽文淵閣

建一天地之根命
建二萬物不全焉
建三六四之命
建四天地之神

人全集

卷之三

曉之云天下一統
仲脩貞親元年二月廿七日正一

卷之三
春二月冬十一月上申日

西暦十五年一月一日
吉日御
朱あく小豆粥アツキカモ
作ハシナシ復ハシナシ小方

穀の怪よと入るを名と書いて粥の上
ふゑくこれじモシヤウキモリ名ニシテ

年穀乃吉也。知社自之發。之多也。

此の事に有りて是の事すをかみみるにて
されどもうそふに附るる事のみに之を爲す

久々の西米が良きを乞て、毛を同ぐ。す
筈よりかは凡てが、小往日へ経て、
終乎農耕

とうかくす百み一も東もさへ
山林園苑乃土也

口地に相手の仕事で皆の心をもつておる
みえを取らうと往々力く思はれども

大和の内へお向へ。久松とつともも
スミヒトツ
新美寺とちかく。多分時亨。ふくら。危

牛けむり引もくはくととつを根
とまめのせりありと神武を紀を
とき是山城名不振森も記せり

▲平野の神まち六坊を海みあり
岸浦の東遠ち十一面報焉モニ季

▲八木の神神れ來出立

地靈院 安地靈乃基の地也只

圓上院 大和内之傳神年祥

尾立院 かき立てより大和名也出せり

よし山なり大和内之ひもろり大和
名不ありせり後乃名はあやく山名
二作ヒテヘミタツサと名付めり

ひあく山嶽と自立小姓タ一郎
あり厄神乃變形而く變形セトシ

新光院 俊行志の開基を有の自
他乃泥春並自前之十社柱門又

役氏の舞陽杖戒ス作カドミ

御尾山 燭仙も祇院

基ナヨヌ又は報焉乃基也先堂の
又年號高ニ上内也(十八五)ミラニ

子ナヨ高大本也(御堂ノ御堂室)と
蘇除者あり矣祭乃便也(御堂室)と

新光山 又貞ト ひ名不ハ孫御の因斐リ

藻池也(芳井乃宮)アキヒコトアリ

古川入流也(又ね井也)宇リノ名川の里也

奈良山乃寄源の孟子大和へゆる人
也(又すくわをゆり也)或入之(又)般度去(又)舊

碑也(又)碑をもくちがくまれ事と云う也
川田

森原ともあり(又)木五仲

久方の本堂たをとむこれハ御堂本の度也(又)

▲優良船 非社松園辰不

新起山移るも
経ち山移るも

主は物也再興経大兵亂ふ焼失を
今本名は必也十一面報焉(又)奉云(又)安

聖院観音
新起山移るも

新起山移るも
新起山移るも

新起山移るも

お詫びの事もさへおうち候る約もあそぶも
松尾山正親も小茶村令公し歎入一尺辛

假名山

吉誠の辻也

起雲山松尾も正聖村正親も喜月の船

は山系附め御り故ニ宗明のとくらの酒

小聖山正法也

中聖村

右信娘也

馬年正波女

中聖村

右信娘也

門内はう鴉人山不やく唯旗の角

苑名とて取る相

ノタリモ原の首

勿拘人ふもんふとすり又仰り年次

あらく不もうとけ不ゆく馬

をとせりもろとくうれどこれ

去年のとく首

のとく馬

人をとく殺生ふとのとく大不

樂をとくわゆる原乃あるふとく

とく美毛内車とむせりと云

号ス年名に正報もまの化ば山

秀金也久乃松もく大本あり

又奉文也正年五月首大坂市正報

小像く羽軍秀忠公山城に陣

御出

御出とがりとくせらむ神り悪の事

とく

墨山

古後山號

久林山見性寺と

行人をゆく殺生ふとのとく大不

樂をとくわゆる原乃あるふとく

とく美毛内車とむせりと云

号ス年名に正報もまの化ば山

秀金也久乃松もく大本あり

又奉文也正年五月首大坂市正報

小像く羽軍秀忠公山城に陣

御出

御出とがりとくせらむ神り悪の事

とく

新川勝城泰村

聖徳寺とく下也

十一面觀音也尺二尺三寸

泰村朴文也

十一面觀音也

乃治亨十月乃信

上久余賀市

是のあみ化ス阿内殿名正

花橘匂うゆひとくゆる奈とくとくせられ

寝屋村者正發

首もとく所きこす

とくみ他よりへび下のとく今ふもん

正發也

正發也

又神長木半

萬葉山

聖徳寺とく

天聖山観音也村聖

大堂山正寛也

正寛也

聖徳寺十一面觀音也

墨田妙泉山小松也

正親也

又高山也去

蘇子化村サホ院堂

又神長木半

萬葉山聖徳寺正親也

後村上天皇乃信

御用山別舉和高源

森村赤山須弥也

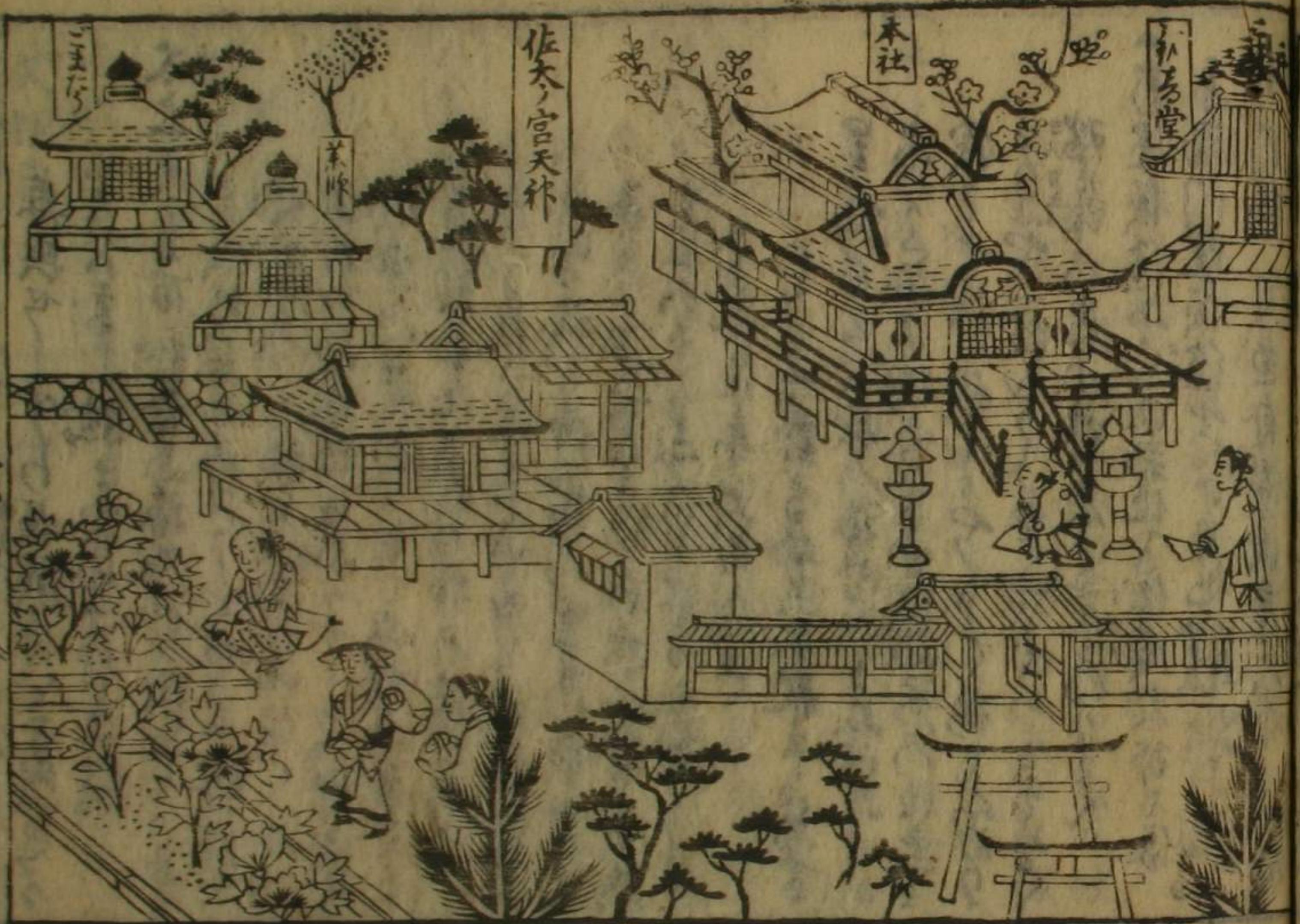
又正十二面

正親也

松市鉢

正親也

庄像



名物

支
薦枕をめ渡すと、心の夢寐があれどん
のをみ
而主泣たまひ十丈ケもの

本多の系源乃伽藍ノ事也かや
失志ノ如キシモアリテ有無トニカム
伽藍乃處を考ルハナシ

神光錄

のとくに、このまんまに、うるさい
やうな、わが、壁紙、かじりつけられ

まゆあらわ
ゆりやくあらわのひつむきとうくらはるはるうめ
守る 守る處
ひすゑもれなむ

著者元真大輔
月小野ち勢二承親王乃由喜為社

徳川家宣
家乃風也。少々之を補焉
絶えずとて梅も山野也
可也。古事記傳
カニの物也

八
何せ小も一希も
後乃尾院仙
洞乃五割乃由來と社がそれるも
仙洞極浦割
乃風也ミハラノ之
神焉や

再興す。ゆり壯齋同と氣ひある
丸のまこと触あらのうじてぬ
今上天皇万和秀承乃が枝とく（ゆ
尚政乃は小孤つもと神鹿に見て
獨裁乃は人めとへられみ傳ぐ右乃
れ割れ尚政乃は少く（ま即細之
内陣へる裏わたりぬ何乃景之
是れ加魯ん丸の神乃注のよ

うくれつまことしよくわづれ
より枝拂舞乃由來とぞうて
色きうすやうじにちり亭やひるを
えどいそへあすけにうちれど
豈安年大呂念九

九野ち勢二承

里乃え九二枝ノ梅樹がぬ法外月の
あつさみの様子もふ然かわらぬ事
候うそぞ神事もうやく樹もあり
鶴舞乃内亦神木と名ひ傳へとく
郭院極端ゆく也勸化人伝承之作之像
東福門院極端ゆく止自他業半才草の對也
竹門極自鳥自漫波庵大作並に額

天神朱雀ノ御氣 刃天神 吻角
衣赤付モテテ亥庫シ納モリ
乞外傳雅博其乃契羽智氏天達
乃稅賦名色乃支那地名流乃亥
馬多羅國起乃而くことくニ
平林山荘相ち玉堯院東坊 古ハ七堵也
御裳多モ十一面觀音乃基也
又牡丹也葉乃大紅煙五

家云山東近ち聖尼院
花村巳未乃年
作をえへぬるくと
大念仏家乃がちの立
西取工人乃居の刻
天降乃経傳のニ
見るか見るし
妙金利永上人の縁起

八幡村走ぬる
ナニ面貌も仍基徳化
八幡 牛从天王 天神も云々
伴加く宿 緑枝指さし
我の只風來と社從へといふ宿く又ハ仍くん
牧方村 併系尼此處乃 ひ不有ハ駒乃牧

生食と云ふ者も首生食と云ふ者も其の如きは生食
去松山四年の牧方村十一面觀音寺の松上行
大福内生食と頃の近い七不思

百緋王子乃娘乃嫁 いく瀧ノ山のあはれ
五又宮女も塩ひいと帝乃あはれ

▲ 深川社 神社私撰名集

トえをみ様樹山勝軍す

又乳成苑ちた云徳首の堂信大協
慶也くもうて時代風ぞりあくら
矣久ふ笑よて今へうか嘗て古
六十秦乃變色とゆくぬうに植
毛り自化乃れ教まつすす而
極佛うて圓光まれて植極變乃
をすゝゆも又たま是仏經を傳
令利稚く乃天寔ホウおり ひち経ハ
ちみる庵と獄氣のあまけ三度小
乃び山命あやうり一時様大木の
あぐみ植りとかく 虎ヒョウとのつれ
ゑひのねに安月乃軍移ふちを大木
まげとかく矢かわりて終小古づり
を子始終乃直腸とあく志烈の大
きとく遂かつて此情乃樹木
あとへたれかとからず 样の木
の恩のあらか御舊と建立 既に
「様樹」勝軍もより早也引立
枝本ハ脂母シロく小也石母本と底附
万松山天祝す 壺井村十一面觀音も御木
深川村 深川社のく深川村を
文豪もス村の名大十一面觀音も号之
至長乃長連小裳宇彌失ミシナシてかる
ハ併矣少へ葉乃もう四人ノ後小四
比久良ちへり一前と參と内波の
五ノ友人わ本りくぐくね里人候い
裳と達立く安並アシナリり
久良ち村於能す 西を歓ち乃直裳也
國基ハ法や大木尚位連濱へ難驚
聖人も八代連如上人舟八乃ふく母ハ
石山泉もろ紀伊シイの植立す
難須那ミクニの轍也と云ふ際は不復
難榜村 太る乃木河而御みの植作
鶴原村 植乃木乃大木あり
岸田裳 長樂もと号ス木多千面
紀高坐乃孫他亦長三天于夜宿とも
モキムキもなり

△ 国の名物出所

楊梅

石川松並一 檳

後段那

平野

引飯

佐原の引飯の店とたぬき

鳥車屋

干瓢

小角豆

蓬根

日榮

皮

鶴頭亥

蛇床子

久亥

木綿

寒

能

血炭

猿山より

金割

放

木撫子

久亥の小月

久亥

能

右河内圓引上

本國花分の集 卷之第五

五畿内 八ヶ圓引

和泉圓

象列

ト爰三般あゆ百枚

放設敷室底内
四處もく

黑山に寄ひゆてゆく

事記

大割

和泉

日報 九三般

舞行高橋三方八千七百九十九

旅の河内圓引 元云天皇琴巻元年八
割て吉野監工直波六國とす 旧事記

元二年四月三河内圓 大島日根琴巻三般

割て舞く和泉圓と並り 神裏四史

岸和田當清城色

あす十九里

思祁夷滿守宣瓶

中ちた萬

山行行ス力三千石

久舞二三三里

市内圓引

内戸付底發

元中主石

内下足令秋日主也



京終市左衛門 本因院六角下九町

同呉服所 由小波下立東上九町

大坂屋妻 右移列二記ス

元



長穂内膳山波清

由移

内膳山太原お様當家清



藤原長益内膳

宣勝裏濃守

行隆内膳

右因清

行元

某出羽守

宣流裏濃守

致清内膳正

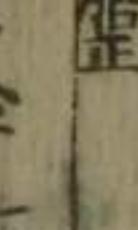
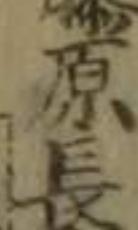
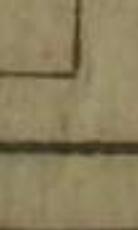
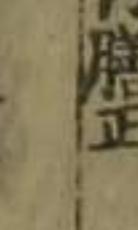
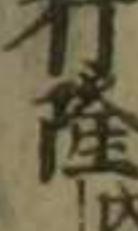
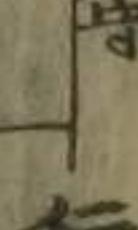
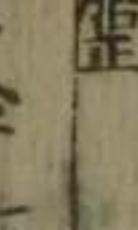
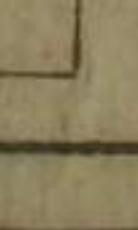
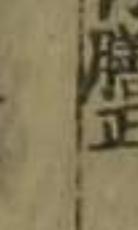
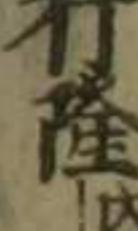
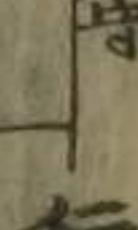
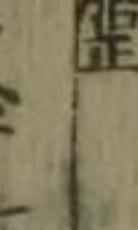
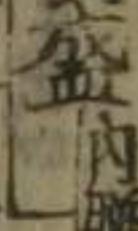
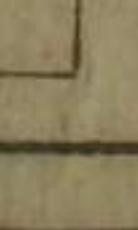
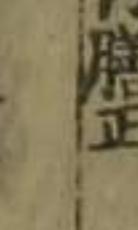
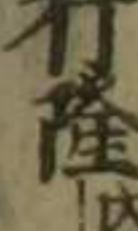
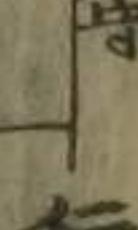
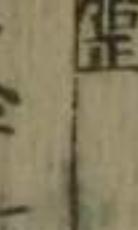
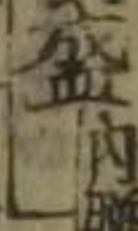
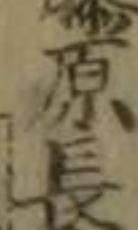
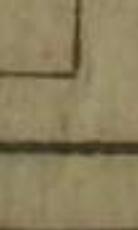
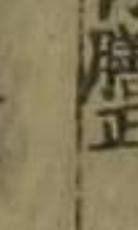
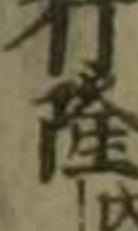
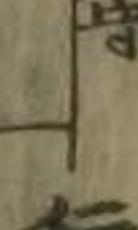
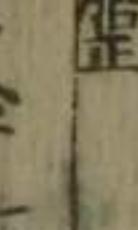
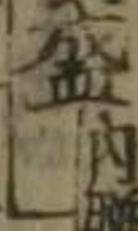
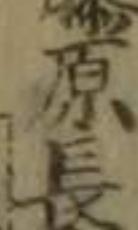
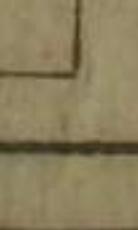
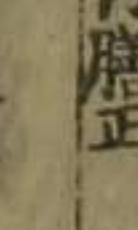
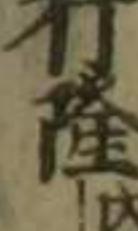
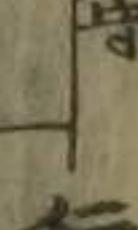
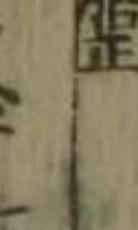
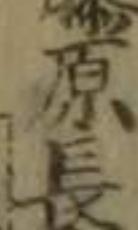
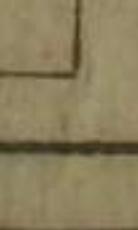
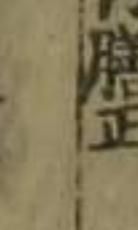
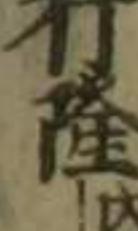
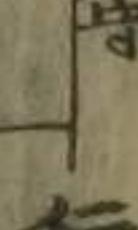
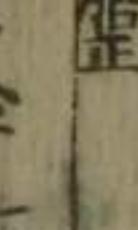
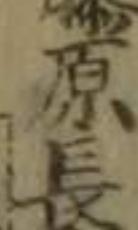
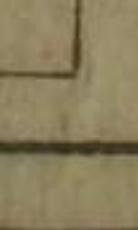
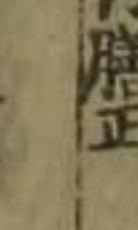
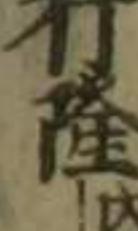
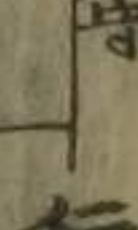
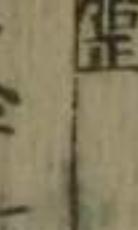
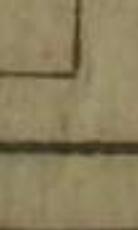
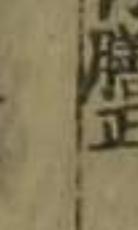
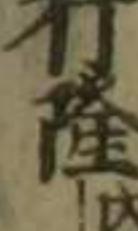
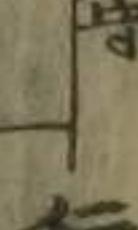
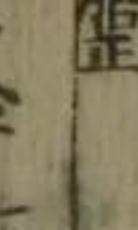
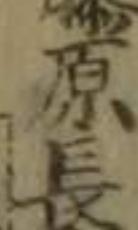
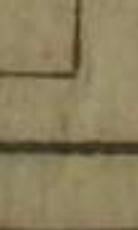
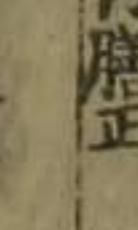
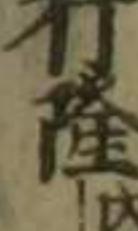
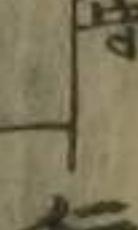
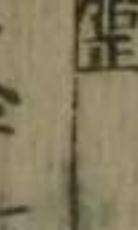
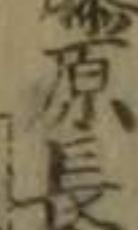
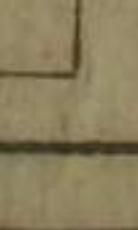
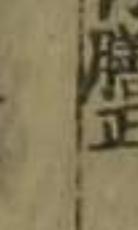
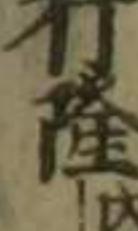
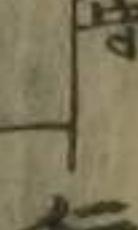
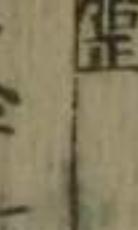
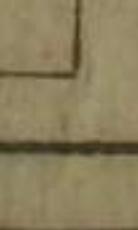
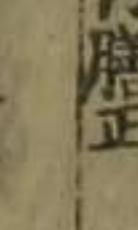
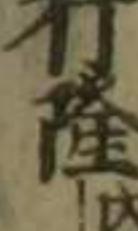
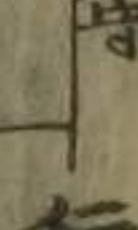
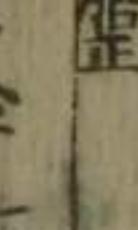
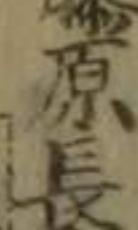
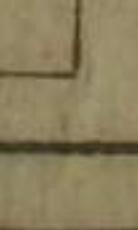
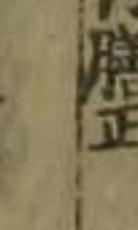
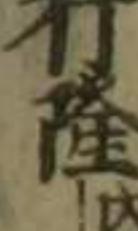
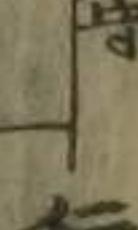
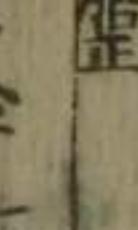
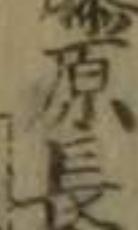
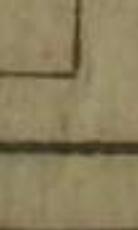
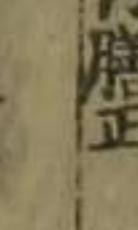
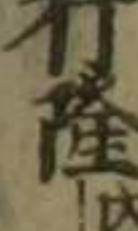
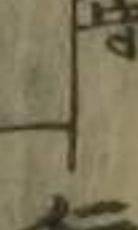
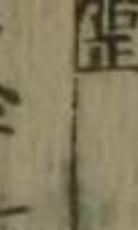
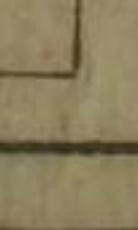
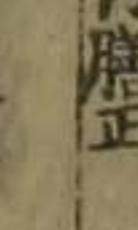
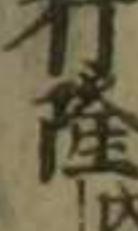
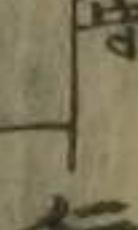
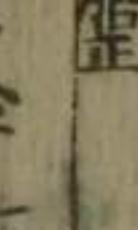
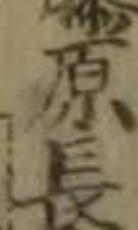
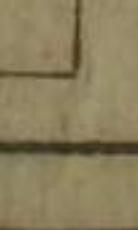
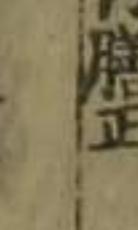
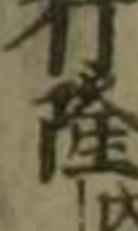
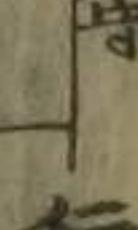
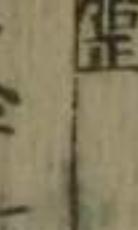
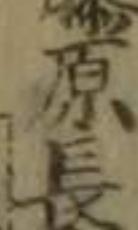
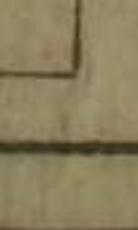
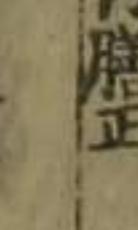
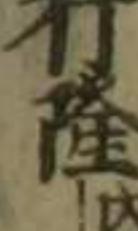
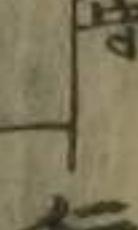
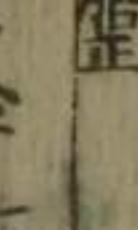
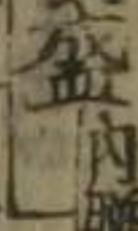
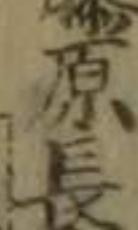
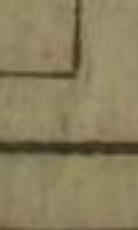
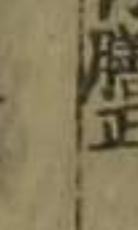
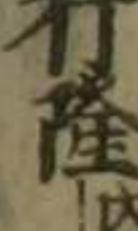
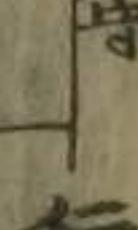
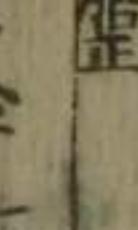
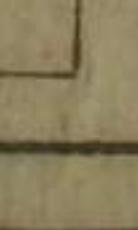
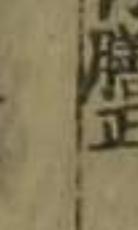
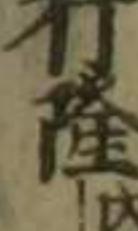
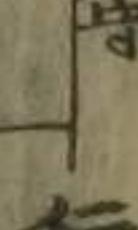
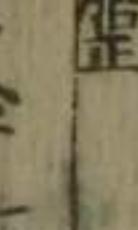
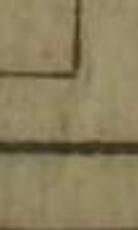
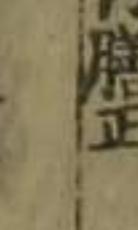
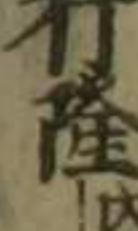
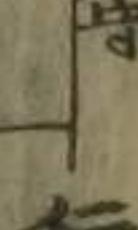
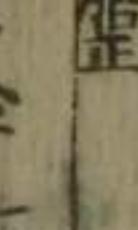
志廣守

志元

右近守

右因清

右因清



柳澤出羽守保明

畠七万三千石

高城西前山於主役武列川部山居
波瀬山頭門本多武藏四領入

堺政所

天野侍官而後

正和十斗百石

与力六箇
因心六人

金弓刑弓弓上條絕之大弓
伊豆吉原弓十弓三弓大弓
謂刻符行人教付

想立弓

佐庭義兵

仲母源義兵

猪足牛兵

阿斐也次牛兵

修母弓六矢兵

朝庭里兵

川道東兵

發河處五矢兵

常底弓弓兵

那庭牛兵

仲母源兵

阿斐也次兵

海船長兵

猪足源兵

常底源兵

朝庭里兵

大船利兵

猪足源兵

海船理兵

猪足源兵

鴻尾空兵

猪足源兵

山尾庄兵

猪足源兵

具尾家兵

猪足源兵

右十一人

平野弓

海船家兵

仲母源兵

日堂源兵

常底源兵

海船長兵

小西勘太郎

猪足源兵

海船長兵

猪足吉兵

仲母源兵

猪足源兵

大船利兵

猪足源兵

海船理兵

猪足源兵

鴻尾空兵

猪足源兵

山尾庄兵

猪足源兵

柳庭 梅溪

任与庭 万知

楊柳子 李子春

具是也 吉尼鳥

秦亭子 勸布鳥

布庭 七子鳥

小而 治布鳥

大龜松子物

石田越後布鳥

西 家三鳥

和風子 久布鳥

高居者 七郎

祭名也 肺三氣

麻雀也 長尾

小而 家恩

紅鶴也 美音

柔葉子 朝布鳥

紅鶴也 美音

八丈 家壽

紅鶴也 美音

任母慶長布鳥

紅鶴也 美音

任監慶安布鳥

紅鶴也 美音

草原平布鳥

紅鶴也 美音

謹阿企者布鳥

紅鶴也 美音

柳田 家布鳥

紅鶴也 美音

能慶又布鳥

紅鶴也 美音

秦郎家吉

紅鶴也 美音

松井 了二

紅鶴也 美音

少力慶久布鳥

紅鶴也 美音

布庭 浩布鳥

紅鶴也 美音

木庭 浩布鳥

紅鶴也 美音

參喜家布鳥

紅鶴也 美音

參喜家布鳥

紅鶴也 美音

八丈 基布鳥

紅鶴也 美音

草原九布鳥

紅鶴也 美音

穀原也 大布鳥

紅鶴也 美音

八尾 又布鳥

紅鶴也 美音

近幸逸人

朱座助布鳥

紅鶴也 美音

今外 八布鳥

紅鶴也 美音

西 桂布鳥

紅鶴也 美音

具是也 久布鳥

紅鶴也 美音

參喜家布鳥

紅鶴也 美音

翠庭 伸布鳥

紅鶴也 美音

若 麥三郎

水樂五

小山 郡太萬

佐勢松玄院

平刻有食百武松人

西牟壽

猪毛人

白原刻付 棚乞少而丸也

辛丸 直吳取所方 百丸 並氣中 百丸 家产

百丸 告勝

辛丸 大坂

百せ丸 横

七丸 射る

大丸 篠原

十九 肥前作矣

十九 疏松

一丸 木小翁

西合有八幡式丸

古東仕官

三ね友保

十河民船太浦 一丸

みをり始め三ね源程志支長慶 かく

かほく 背く脇小后程志く和泉河

内乃政志と徳野りむび散小政所

とややくより今乃畔を出と政所

二ノもひ別かりとぞ天正十四年十一

月ふ學く尼秀吉云乃令小吉行

て脛を度圓車轍小於く村越せり

ね井友用法下 信頼乃直附相乃代

宮を勤ひ候志云子乃る酒を送る

野山へ後程乃武士三十餘人遣され

りゆふとひ友用法下小於付られり

松山新助 広保年中小三ね源小

於く爪牙の臣み仰りしをもととく

か潔る乃義士あど勤め志くが天

徳侵ふやうく万小きえらく裁判

争ひくかと能くらりりとられて血手の

良亡かりりとられ也

小西か清

天正年中乃江島津み

萬念小西孫十郎と云町人乃福志

あり一ヶ音志と云町亦小城代の時

秀吉公乃所仕うて候赤圓福昌は

田中志へあり秀吉公乃所上あと赤

丈元安吉と見く味方ニシテ

りちと仰と見く味方ニシテ

れ袖くみ石と仰及小法神

てぬ清とくわ

山西汾澤守少長 小西如清
國男 有りを圖(小姓)出勤切るべく著せ

内蔵主とあまう

左へ教軍ハ主張傍く津ふをもて
切名桂庵と送セヨと云乃文也
まおひと今之にあらヒモシ

宋列國中計社

大鳥井社

一宮記のみ
日吉良多の義
ト好西郷云甚白風也

多不以故少太為之多。一作社智之部
貞觀元年正月廿七日後記下 一作隋記

花 無人の心をもれておもか
く文句も取らうと却くおひな様

卷之三

通計

荀爽注曰：「此言人之本性，生而有好惡，喜怒哀樂者，無不自然。」

取締堂の細条モ勝
久蜜源の匂孔口る
入蝶々聞密香遂得通入而此於室

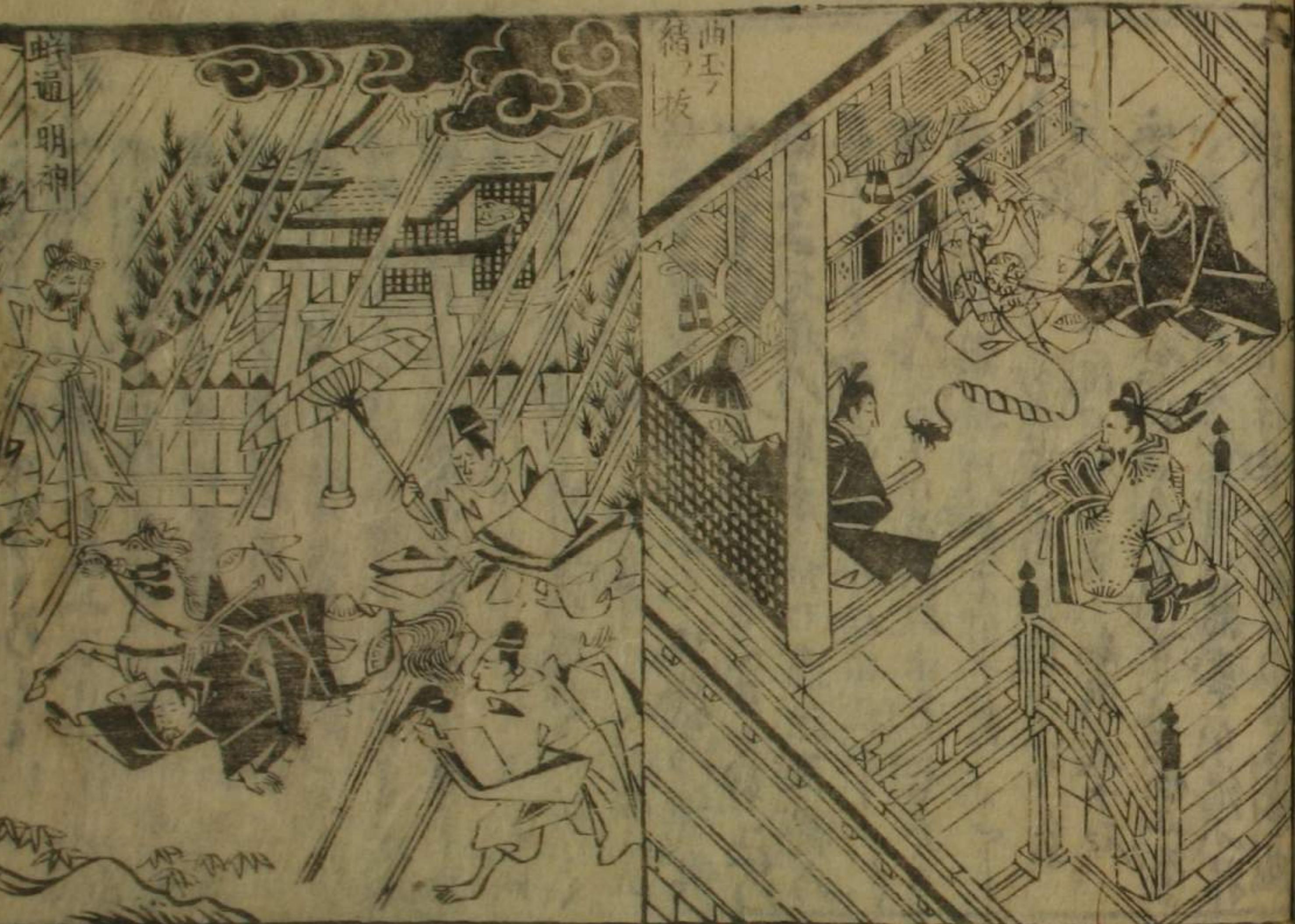
以其名所要出稼還卒寢之人雖云日
中而人甚賢哉遂不肯致私之于中狗

進至大臣俊烈而薦之。有以雅樂之社樂告云。勿以是日以曲也。其日乃忌也。不以是日以曲也。勿以是日以曲也。其日乃忌也。

紀賀之紀引より西に由ちて北へ
シテ山とす過人會へて云ひてか

すがの事あつて要へぬと
はゆる社あつてより御さんとおどり
又第一番御用事は既に定て、

らひまく鐵通の事ありと別ぢて、
て書寫する。かくしてゐるかも云
ふ大庭がありてとは云ふべから



えぞくはわくわく

卷之三

豫入小稿小よりみ詔曰社
令祚立西八幡之原之

日大の神社を以て候勢の外えと一所ふ
勤修一 勤り神紀の御事と申す
毎年九月十一月各十六日小祭礼とつむ
ひ町をめぐらし神の町となり六月後ひ
佐吉の御輿^{シヨ}、流浦へ出立^{キリ}す。此
は神の内^{シヨ}、外門^{ヤドミ}とめぐらし候事
入^ス。御輿^{シヨ}ハ神の御器^{ヒツク}也。御輿^{シヨ}
もろかにたれぬ^{タマム}。佐吉^{ヤマト}と世間^{ヨコ}
は神と佐吉の神妃^{ミコト}と申候。御輿^{シヨ}
とども行ゆくと云へ。移りし日又^{タヒ}社方
株木^{サキ}文殊の年号^{サイニツ}より當社再興^{サク}乃
れと云ふ。御輿^{シヨ}は神社ありていた
境内^{シヨウメイ}とひろげまわり東へ西へ造^{ササガタ}密^{タチ}あり
神^{シミ}小社^{コンシ}教^{ケン}總^{カツ}持^{カツ}八^{ハチ}美^ミ守^{モリ}て奉^{タマフ}る

三村官

風村と云
和歌八十石

參集山大念住ちへ
修守へ世係みたる
とより二村大師作ハ 講事中紀小林
紀少林ハ 乃伴牛サ トキニシム事勝カタシマ

天神宮

かろ庄移列社津主

大名社の社主

社領式百石

補主

別當天台

田所修理

常樂寺

場乃向ノ下にある庄ノ衆列より、お
庄ノ移列の内、放小標と、りば神主の
聖名ハ度無相大寧の福主て有り
也。前七傳と賜列。一ノ主一ノ處。年
中少く淡りあり。也。又民家ノ御小
吳須代是梅として。庶人過候のみとす
。一社酒やまふややまと。社ひのえ
候氣凡キ。とそし。ク。不ふ候氣の次
五三。莊者。もく。もく。もく。とあ。也。詔
ひ。つた。社祭。ひ。か。す。の。居。と。年
ふか。の。庄。氏。子。う。て。造。誓。是。興。あり
殊。子。ハ。左。圓。秀。吉。只。ら。而。而。而。而。
左。法。朱。右。社。祭。返。禮。却。右。社。末。社
金。き。う。正。堂。城。不。赤。若。空。乃。吳。慶。
し。く。く。に。ち。う。す。小。震。宗。祖。天。亮。
法。派。事。て。叢。山。小。屬。セ。リ。

今池井文天

一。緑通主と/orあり

方達大御神。一。社切里辰三韓と心
一。山波。ほ。乃。媛。山浦。小。守。り。の。心。也。
恒。古。山。作。皇。底。小。守。一。の。心。恒
吉。古。山。作。皇。底。三。之。一。之。く。山。浦。小
守。と。方。達。乃。改。主。と。あ。か。ひ。山。地
も。今。方。達。古。心。底。も。ト。也。ト。也。
を。金。供。乃。浦。と。以。社。と。當。め。主。れ。り
え。れ。主。造。他。首。主。も。る。れ。ハ。ひ。地。れ。云
山。造。是。乃。時。へ。じ。え。も。天。下。山。達。主
乃。山。主。も。毎。年。六。月。端。月。ハ。ひ。主。の。祭
礼。主。り。ひ。日。六。月。主。祭。主。て。祭。へ。れ。と。達
侍。り。常。乃。日。は。別。あ。向。衆。あ。下。ト
う。う。う。

松原宮付處鷹

山浦。小。守。の。除

ゆく。す。に。免。文。四年。八。月。八。日。小。祭
終。う。て。へ。八。鷹。浦。出。せ。り。同。十。月。十三
日。小。又。海。守。と。り。大。あ。る。慈。山。浦。の。よ
き。り。き。長。主。尼。下。す。惣。四。尺。若。板。乃
堅。き。臺。尺。又。寸。五。ひ。急。二。自。と。確。て。死

まほりもくらう中興教義の今
爲後乃山のある井戸の水をも
蒙る甲子と云ふ

名院
日本小便

はあは住吉大神
毎年
脛の日乃が移小神奥にせか入れ
後下しよ乃上小二社を小櫛久御
もい寧^カあとより又良^カ方^カい寧^カ
ありゆ小飯毛極^カひ御小平株^カ
前^カせうとも九^カは乃東西あふ
小西^カ乃^カ十一^カも^カ吉乃安乃^カ家^カ
屋^カ小^カ進^カへろあとつり、
本社の橋町根原^カ芝^カはば乃

元和年中 小御宿せら所 たりひ居
院殿よりおはす 開きさるの内
ひそかに
荒井堂
育内務省行持定ちむ

御傳中ノ所林乃虎部アシカ也り亦長ニ久
キテハシト傳シタウ小文字サムライ也附ササガタトシテモ之ニ一體小
夫多御アシカ也アシカは小今乃アシカナタタマトアシカ也
沈中アシカより經中アシカ也肉アシカ小酒アシカじ即ち三村
大山アシカ也乃赤社アシカナリ彼アシカに文也アシカ以大
之而爲九竹アシカナリ別而小者アシカ也アシカ也

守宮
山森乃地主也
小菊内あり婦女
とあめの社なり小菊内あり婦女
乳乃さうらと欲を津もとひと乳
ちくゆくは外小宿
新之見是るをくわくわくは乳味
すとゆりを御もと乳をあらひ
あすとみゆりを乳子のて世緒
小兒か御たまむせりふ後
らざれた外へ乃致シテ小もて威と
湯トくづり實脇あれば連もとねり
仁德矢皇陵
山陵の泉河橋三里

乃境大少滿乃東乃町外より八町計
被遣了り世人大仙後シテ天皇已
亥乃年歲一ノクノ歲ハ難波乃也
鶴の聲乃是小平野の村ニ号す鶴の
村列天王も乃是小寺也多之山也
久きつて改りて山亦小修めぬより
是處みち矢張る乃事山と荒原山
と名之也山腰乃御小萬代村云
所小鹿中反古之處也天皇ハ後も

田井山

卷之六
七
勅道立ス乃陵墓し仁德帝乃中
勅立御印ミテ御跡取て天皇に據
経山城西勅道立ト御左天皇乃
自立モ延一ノ子セ即ち御左天皇乃
トヤ傳人傳う或ハ御殿と御右天皇乃
陵大上り御後也トテアカツヒ
武内宿禰墓 大仙陵より坤小あり三
圓山より牛来乃方ニ世へ長嶽山より
武内ノ命天皇より靈跡天皇より
六朝小伎うち居たり

一象列塚右跡

宿主村又

宿主村木戸村（小庭と向）

井領村中筋村原村（二村尾へ去）

九波小移 たか松

而松作軍山城

乃中村小波九波也トハ漫浦小波也セ
タの波取どば所乃松丸が小つまみあ
不比能乃ねくづり舡从乃而灰の居也
今廻蓬社乃内篤也ヒ社の外小別ト
久松浦神主一社復ひまとし祭
石窟院乃毛と毛て九波小移と云

碑

神乃松村乃南不東高

内「かふを」う御御内御御内御御
降と立りて今協と將す御降、往

吉乃神波小泉もうて今次傳來と

饭

飯

五れり飯を小御る飯名トす御作の

千殊也御とクル御ももゆく陽小

表す滿殊の役古廻廊乃急行出務

も毛地小波と毛小波と陰小波と

やえ六月乃作樂窟院乃飯能塙

少くりの千殊乃急りと九月の御作

とお出爲へうなまく御殊乃急と

毛、御毛の深御一皮矣とば

娘田植勤所

例年

娘田植勤所

八月小苗不深ち町乃越女ありて植勤

きタ恒例なりも御日是後ありと

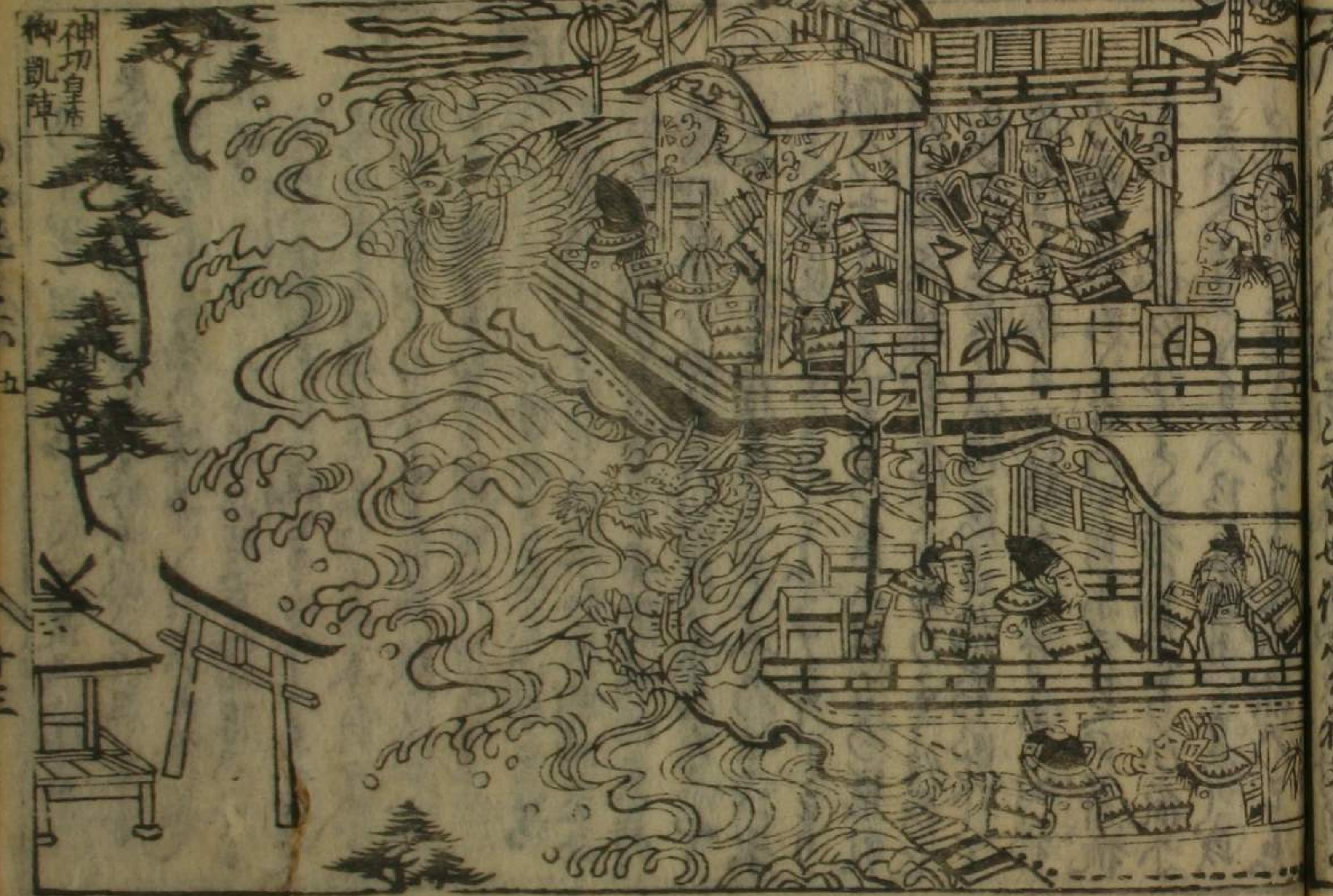
或候ちり飯小勝

七度漢

或ハ七度漢

七度漢

七度漢乃御立カニモリ又セ明
乃御度毛り毛ハアヘ天王の像
浦へ毛り多リヒツ小引れてましく
毛ハ撫合く金作と御あり灰かく
毛アリ七度乃候毛候志乃御作



神功皇后
御凱陣

寺とまつあ後かひりと 墓塔難と
七度海の波かくも、きく又ば疾ゆく
佛丸行わり

七月八月小踊大公佛丸河内山手殿
乃大公仏丸酒をもどよへも暮り山手
乃三時小漁小漁そもととかと佛作事
又へ一切見是法界を物のため小漁奈

宿院町え大師の山氣

るまくま豊もり徳末乃傍乃後とす
放め世人とれとま豊裳と名づくも

勢立塚

塚穴乃空井がハ臨元堂

タリの多ハ餘も勢立乃ある之餘を

利浦堂

排列し庵前後堂小寺

玉振節

あ家も利浦庵乃

立節 さうも節とぞとぞ名不レシ
終秋のをとくを既に秋の月秋 ト
空きの本格は既に既接の處より

立節

はあり世後小云祖文ゲ上

乃トシテ祖母が傍シと云流をとす所
泉多佐乃酒乃产妻に美乃子ルニ歎ノガ

祖父ク止ムハ傳ノ傳少く是の三昧の因

周防町

往古不經吉内久麻乃はも

とけお小櫛^{コスケ}ごとく株^{シカツ}とてかゝへ灰乃庵

とゆりえハ根下とゆりとと今日町と

云ふ者名とも今よりは後つてひ所

多く林とてあつて例とつとひくとし

答述

市町と湯脇ノ町らのる

太小池乃辻ヒミタリび辻和泉橋深井田
今地の境なりひく安曇野の泉引
篠田村より塙^{カマツ}五郎内木乃るや
長方乃書ヒテ塙^{カマツ}五郎今乃せ小井不

まく辻長翁^{ヨウ}小木山^{シマツ}かと云り

御飯乃寺

もの庄小林^{コジ}の塔取

永徳乃本邦^{ホンボウ}事居と云わりを往経と
伯益主^{ハヤシ}ヒトヒ傳法也福^{フク}也傳^{ツヅ}也
作^{ツヅ}して毎日法^ハ旅^リをすわら内作^{ツヅ}
乃感^{ハヤシ}疫^{モラ}や森^{モリ}うち小三足の野狐

もとと抱^{ハサウ}にゆく骨^{コトコト}もせりば狐^ハ小

天足^{アキ}三^ミ人^ヒ陰^{イニ}住^リ九月^{クモ}とまし或

ハ城^{シタ}難^{ハシ}と退^リタキ^{タキ}天狐^{アキ}難^{ハシ}と

もれ^{ハシ}世^セと^シ是^シかく今^{ハシ}アリ^{アリ}此
ち肉^{シテ}小^シと^シり世^セと^シアヌ^{シテ}御^ミ机^{シタ}吼^{シタ}事^シ
役^{ハシ}と^シひあ^シり起^シま^シる^シと^シと^シそ^シ
そ^シ以^{ハシ}大^シ差^シ何^{ハシ}リ相^シ小^シ化^シり^シと^シは^シ狐^ハ
也^{ハシ}と^シ仰^{ハシ}く仰^{ハシ}く殺^シと^シと^シ野^{ハシ}狐^ハ
乃^{ハシ}骨^{コトコト}也^{ハシ}と^シ義^{モリ}へ^{ハシ}傳^シセ^シと^シ亦^{ハシ}有^シ
夜^{ハシ}行^{ハシ}移^{ハシ}也^{ハシ}と^シ小^シ一^{ハシ}九^{ハシ}巴^{ハシ}から
も^シくも^シく^シア^シやむ^シ乃^{ハシ}大^シと^シと^シと^シ
も^シく^シ行^{ハシ}き^シあり

塚岡呂

泉多佐乃名^{ナメ}岡^{カタ}と塚大町^{タカ}の

西六羽筋^{シロクヒ}小^シと^シり町^{シタ}乃^シ居^シと^シ塚岡^{カタ}
町^{シタ}と^シり立^{シタ}高基^{タカキ}之^ノ所^{ハシ}お^{ハシ}乃^{ハシ}海^{シタ}
か^{ハシ}一^{ハシ}と^シり^シ系^シ作^シ如^シ來^シ乃^{ハシ}石^{シタ}松^{シタ}と^シ井^{シタ}
中^{シタ}小^シお^シり^シ胸^{シタ}と^シり^シ玉^{シタ}と^シ勢^{シタ}灵^{シタ}
乃^{ハシ}系^シも^シと^シ汲^シて風^{シタ}あ^シと^シも^シも^シれ
瓦^{シタ}敷^{シタ}と^シり^シ庭^{シタ}文^{シタ}二^{シタ}年^{シタ}正^{シタ}月^{シタ}
元^{シタ}乃^{ハシ}天^{シタ}小^シ又^{シタ}門^{シタ}入^{シタ}小^シき^シ小^シ井^{シタ}
を^{シタ}あ^シ乃^{ハシ}用^シあ^シて^シ遊^シ也^シと^シい^シに^シ
あ^シわ^シと^シき^シと^シト^シ新^シした^シ君^{シタ}差^シと^シ氣^{シタ}
き^シり^シ依^シと^シ旭^{シタ}蓮^{シタ}也^シと^シち門^{シタ}
衰^シ信^シと^シ達^シと^シ大^シ原^{シタ}一^{シタ}月^{シタ}礼^{シタ}乃^{ハシ}門^{シタ}

人を安五才ミトヤウシアリ井ヰハ旭遠社アキタケンザ乃ノあ
象ヨコと切り角カツ病ヨウまマ体トボク張ハラフ不ハ闇アカ乃ノ東ヒタチ
風カキ呑スル身ヒメトト閑カモカモもひヒ風カキ呑スルて休ハラフ天アマ
休ハラフすスル石イシ廻カム入スル乃ノ先エダ除ハラフ乃ノ身ヒメ錫シタツ城シタツ
絶スル乃ノ方カタ取ル而アリあアリ事ハタツ小コトハアリ乃ノ内ナカニ裏アツシテ安アマ

文小通
精句
市戎并大黑町

文小道 様
市秋井 大黒町
想像乃夷乃あテ
弘法大师乃ゆゆく市町乃あやると
紫火毛れりもゆくもあと市夷町と
ゆり 又大黒町も是も大师ある
天に幼達へ立を

後者勿以
能乃之時入

而泉多乃少也
勢乃三時入も少くも基不弱也
小河幼升と引り力をせうる居半身
山井も然従事又其業事ふと用
ぐ卒念にそむきをやくも

海寄寺ノ井

着と仰ぐ様小手を法恩小舟に
と義と申すが如きはと涌出され
ど和尙小舟の内へうち井ある。西慶年
中乃より考一もを尋ねて見む
らる色黒く然と見えぬうりも下と今
係小舟町とすり海去ちか今あ家
あれ内ひも門と権り首へ大ものつぶ
小舟とまく

卷之二

一
は井へ文ひ凡て今林六部
ニ節と云へり傳り寛永乃江一向宗
万福^{フク}ちゑ^エま配^{マハ}と謂り古^{コト}の事と
ちへ人^ヒ翁^{ツキ}翠^{スイ}一^イ夜は寺の名と謂り
は寺名もありとぞを周^シ内^シ茶湯^{サヨウ}
用^シあふせりも

卷之三

と云甚女町これり者、かねとひづるや相
子乃居てとて、色と引くべし。うとひ
すら極矣とされば、一休かあ極めのこれ
は居て、安一郎君ひより、ひひく
安一もかくかそつまんせんじくか
こわざづれ、抱ゆ地く

あたうるもおちゆづや
こゑづりきれりかのやまくら

二と寫へるをうへ
又井ト名前は小姓の御召向
あつてあつたりと見えぬものたゞえり、

▲泉列山川古名之部

横山

新六帖

元後

何うてへた極もくわ泉をう横山炭のゆくかん
燒燈名わし記小白炭一程とむしてえ
往小云茶乃湯極中乃え炭より光乃
燐乃炭ヒ瓦窓く白く壁て用ゆと云
木炭小石ノ引と引ざりハ奇乃炭ふ
あざらわとアヤマヒ

あさ山

又老あ小日暮を 爾翁

象からま山 楠咲ねじ様のと舞をからわ雲

和泉乃松

名不系れ花席

志兵乃森

名不系れみ枝乃手

枝豆ノ木のゆく お乃くアシヒラ

六帖 沢も 岩も 烟も 雪も下るる里

金多モミの社乃荷のと宗別て荷と社と之

舟乃浦吹飯 一巻ふとまわ

沖浦風吹

み丸浦ハテ くうけつうの浦も 楠 みち

雁 松 どく うみ野 わたりも 楠 みち

候 沈 人舟は小向居を

さうの浦

さうの綱 松

高原乃渓

橋渡雪日辰

名不系れ

名不系れの渓 やく政

沖浦の渓

名めまわ附も 附も みち

田窓 細引

あひの

さりのそ

氣の浦小契

石浦

名不せり

さくの里

奈波森小出

あいの里

氣の浦の里の里の里もあれぞり

一旅店

旅館乃つ市村の名小

をわとそこ一旅り一体と月内乃旅館
をりわう内一体和尚一乃小向くえ
方法乃ちりりりりり一旅とち一
付一旅是くえ方すとある体とべ
りりりりり一旅と一體と成ふいと
ゑとすとすと或ハ清と他り奇とぞ
あるのく高原乃山と奥セアヒ
カツ乃程奇

名浦乃行寄り出を難る處と小宿か

と捕六多捕端と云鑒二門にてみゆき
じ不ふ閑居へ人共と終く一乃裏と
下さく志と人小食わと支はれ事と
ましれト小ち内奉を船だる糞の
船かどと入と車えへ今いわす小社
ことひされよりお食をく終らる
とそり夷齊くもおひ食れと
お祀者あくとそりを姓とども
人跡を留ともとまし下と一山
と名付くせ人悪くあすとまし
と捕縄の今細川坂下ととロは傳
林業庵
一体和尚乃庵とば和尚
あり内佐吉乃林業庵と西和トタの
一に又八十斗乃け三日を傍も用
く暮りとぞもとぞもとぞもとぞもとぞ
けりと和南作ぬのま向ふりや水行ん
忌諱とでけやうと意いく
來てこれども失毛の冤家に何佐吉とのちん
き義乃とや房の久延翁と仰て教誨を
本てれども火もる事無く身を經はせ
こよごて宿を取もぬればほもね
らだめくめ方をあらす一体さればとて
祚乃化現しゆゆ地ありやくとくとくとく
すめ林業庵ととととととととととととと
牡丹花
歌小云牡丹花の眞平就正乃を孫も
そぞく英侯とせく爲づくに肖柏と
坐くす又自の牡丹花と移す人多
あひいと書く事く書く事く書く事
金もととあすをう人それとあすと參
ととととととととととととととととと
隠と楊列沈田にばす頃あく夏居
云く酒と吟と歌公モー花と食せと
三毛とす根小ひりく傍乃礼と並て
泉もとめ居す大永七年丁亥四月
八日小弟す墨八十八と云

経傳

系湯乃あ近からり曲
津神松町小住す所へ吉田國後守
仲村と名づく武田信光の御孫なり
征足仲清良乃礼の前免をく設
伝入孤とゆく事方小鹿渓アシニ先
小泉もめ山住す後又花源山堂う

日奈戎黨乃隱處小居候一毛房と大
忌席と候づ御饗あく紙幣一宋居
士と名づ弘治元年乙卯十月廿九日

病死す

之陳重海

神松町乃向と云
不乃先祖久住れ人を立世乃うり経路
を陈んといと有りてくもふあると達
立せり経路たま乃後永田令の敷界
志乃家近と云名とこましり
千家易 名号利休

利

制小伏せり

千吉四郎とひいへじを陳経路のれ
く天下乃敷界乃夢可世小かられが
段ふそ圓秀吉へ云此それかわる歟
然小紫盛ありてこれも矣小かられ
利制小伏せり

家

杜舟花乃門半千ちり

能書やく源氏物語をひりる二千
般小及づりがく今凡除毛を手と
もすすあれ一段とくの歌歌乃本に
ひらき失されば牡丹花をきく
手小凜ふ小口をもとめやねと鶴と船
翁三隆達

一

えの日蓮家入爲

角樓栗新瓦鳴

あ乃庄同江町乃

内小洋古家乃も肉袋備く居候す
刀乃鞘師も細工名參うて小口
も力とすへくにまうりと鞘と
あの方に是名ふそうりと云ひり及ぶ
を圓へ石出され細工底玉うれ昇よ
きるれどては様端にあけらり細工乃
表人乃もあしすそうりとて
世に云侍かられあらひふふね今派
小みよ内秀吉云もりと使と改り行
くも全まわかにかく乃上云われが別
からまと玉座をくさつてぬりへ五一つ
中へ内書かくもつうされはく戸候
やくへひた可席ト上と上而小
かくもとくへ体ざりきり咲乃と
かわくべる奇少を摺りて遊り
ト若とく圓自秀が次之とせり是も

骨藏地蔵

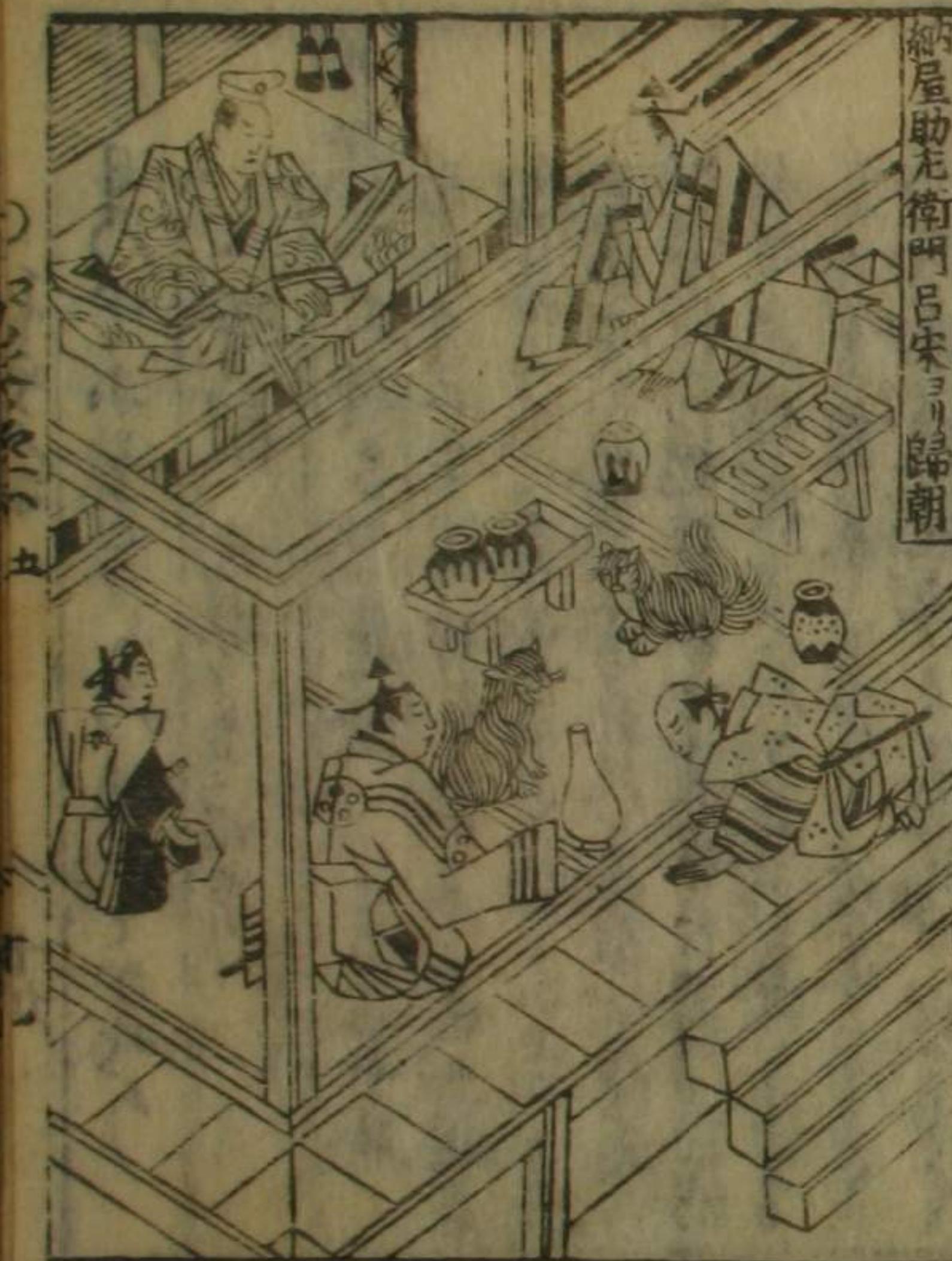
は益傳乃石像也其基

某庵乃化ありかの店祖又上乃傳小
过堂内門がありて甚かく奇怪あり
ある事及れんとゆえもひそに生れし
て哉氣よりぬくされり而ち石地蔵云
それち石付く今み首藏地蔵と云
傳へりきら也乞諸物を左行旅も詣
りをさり夜今み假玉もあ
唱

歌
詠
祭地蔵の宿

通那場乃源小御尼
助たまと云町人天西ノ初夏小小疏麻

もり即衆へ來り文禄二年七月不夜灯
寺り是法事代友田木工从政院八
千延治摩香二足上まり由礼ヤ上御
持未だ壹六十日のみけよび油燈
塗めかすや石通を此處居ふ
久を平家易と云く壹乃品とから
く名代付のれどね一而のれ而くこれ
やくも衣やせと始出ミル一然と
乃人代付に復せ五六日程とく
寢みぬ今三病沙り」と秀吉云々^ト
上うと金主於れを助たまふ



日乃中小をとく力漁人とかれり

一寺観 元標ヲ記せり

其處山大経ち旭蓮社

あ旅軍石

も約束ニ支役村上入室乃建立開山
智永よ人之塗家焉く流るふ小さり
家小入く唐山道社内宗廟と傍承
號名より旭蓮社と云ひと慕うが故
社号乃極樂つ上人主也源氏慶く延る
天皇御墓ノ御号而ち後号
大乘真蘆池舟とも称す故
人阿弥陀經と觀と行づくと人本寂
寛安八年壬子七月廿七日ノく太加失
名の門先を以てありて忌日是す
樹碑料已千石川當代小額も正川
下處制あり是会仙去行乃て場
候も七社の作 又傳聞呂乃アリ
奉小徑す

三國山向泉寺

あ旅九十石

聖武天皇乃勅於開基ハ乃基善祐
がる千文祝焉然當祇室牛頬天
王なり建立乃祖小阿彌井を引て
清泉とゆり故小向泉ちむら山寺
泉河橋乃え小梅小松小松小三国山と
称す別名ハ遍照院也号す然小
三國猶比乃伽藍と承正年中少矣
火小かく門とくち院滅亡に即ちを後寺
門と遙乃え小移すじう乃がる行
持名今後屢々あり秀吉云乃は少に
對田九十石と楊ハ山當代小勢もとれ
朱牟殿制なり

法藏山懶因院

あ頬八十石

又照因院と称どり
後素戸院天文年中建立開基惠
能上人姓源氏氏列祖と本乃高族
がる所跡也如來惠心乃高祖なり
熊聖達觀乃興廢小寺く高寺乃
別号セナ万石稱すとや又上人市に
ゆく乞食窮民とあつたまゝ故ふ
惠因院く下え光代八十石乃恩地
流高代ゆきり山米下れ處制なり
法也辨文弘法大師の歌刻シ

法津山極樂寺

ち旅廿石

卷之二

一

國基行基が創むる阿弥陀寺本
公人乃基乃あ紀あり清瀬天皇勅
向多く山号と云ふが蓋とぞり
ひしいち内小室と櫻居各継す
又法界引舟乃墓所と稱小比叡堂
えと市町といひと是と門外小
移す付僧房も度て経のそんえり
げち一向ふれてもあれど之段ち門裏
人の中四つと秀吉も知れや否と
承文と曰ふ代わせうとおも也取く
而未下教令より

も取十九石

某和年中乃家刻立てやるへば
浦乃海中より漁人乃細小舟にて上
ら也かく美術や茶の御基乃が織之
よきもす家前も裁取り縫て貞和
一方天台乃ち鷹とされり縫て貞和
乃法美上にてとも又為傍引持高
演上人小舟入寺へあるとゆき附の
往來と往來と號而称と号せりれり高門
再興無事すひる是時奇物あり
中此堂長三十石乃翁也下さる所
繪故小室や朱漆額金也此
裳前小舟あり松小院乃直子小舟
舟と坐りて帝船へあれうて極
花乃つも嘉へふたりあり重帝也れ
着み とひもや院乃浦乃若波乃
故乃ねふりとびと
ヒル者熱五度ふるく四くみ
乃移也乃弘祐小室けつよも山川
感也く 邪年もみ浦奇巾冠也と
ゆくとく縫り今と植
ゆくとく縫り今とみ景多きと
トトキナセヘゆく
トトキナセヘゆく
トトキナセヘゆく
トトキナセヘゆく

龍門山南象寺

卷之四

後秦長院弘治二年三月碑記大文卷第
刻達閩山云光書通圓潤大極寫
中興次高和尚妙大德也乃赤祖也

秀吉よりも直百十石を給ひ當付
代の半力先候乃由赤市歲令之

秀吉よりも直百十石を給ひ當付
代の半力先候乃由赤市歲令之

禪通寺 セイツウジ

直領六十石

後醍醐天皇有御渡臣西室あた大臣
源氏宿院門内侍臣石堂右近以松房
を外握源氏等大禮那うてもの達
岡山の大庭山峰有浦乃木子大雪移
源家然字い可義和尚がり為ち源
ハ連行ち天洞房の赤源のいづ圓林
小ゆく然雲燒失す故小大浦和尚
梅院表林和尚中興寺へ赤源とす
秀吉云六十石と附与一ノタリ也當代小
町と由朱下灰命お邊かに

大安寺 ダーランジ 布食山 ブシヤマ 直領廿石

承元甲戌年 サカニガタ 葉岡山秀池和尚
源東福も乃諸大院 サカニ 茶院乃あ
ち度由朱下灰命あり

寫松山海光寺 サクモリヤマヒキヤ 直領三十石

承元甲戌年 サカニガタ 葉岡山度智

四郎三世乃源院高寺初ハ三村の跡
乃西内門あふる之え和光院の以はる
家も乃門入へく一坊セ梅山由朱下
三十石度由朱下灰命す山中名升也あ延
也於十五年仲

妙見山引接寺

承元甲戌年 サカニガタ 葉岡山秀池和尚
源東福も乃諸大院の以はる之え和光院の
玄孫元みえりを爲せりとて是の事也
三郎ともす萬屋辰す家富人、既と後
其すもまよ主ふ帝と云ふ泰忠忠明
ゆて御内門作セ修備すわたり時又入
を毛麿く而來延切、御前於とう況
うちばきを仰これと後吉之作文亦
己形體とぞれた形體とぞもとすと目を
て毛麿から來此作の様に體く是故
とほ海をにめらうけ又常葉会の物
該と詎小氣より御てくらく度のとく
すのまご三日と極むべて又乃病とく
く平愈とくに後利より取向と云信

前多々く今公院のとよもとく一師と
船也。ひま水印もふゆて成る事
つて伽藍七堂并み四十二院と達
一枝葉と安西。一枝阿波と達
多く入弘徳寺と云ひ。因基元時
と多きせり。別院宇鷲峰も。初
定山引接ちと宣下す。は又入新瀬
上石引接ちと通り。弘勢國足
外也。割く。水本多附て。た構を
か。安和院。五小勝年。地主を知
接亨。楊社と。う又云高志の。不
主計。かく。多修て。あ場乃福と。か
多き。まよ。鷲峰の。財發心。翁
繁。かく。を所と改名。したく。の。の
隆。かく。かく。然ふ。翁。翁。が。の。因
縁。す。安。三。年。乃。翁。を。に。海。陽。寺。
乃。場。乃。末。と。お。あ。小。翁。も。ど。四。条
已。翁。翁。せ。り。ち。段。十。石。三。計。翁。朱。下。翁
金。ト。やり。

總王寺

378大石

無永年中。連立

岡山日延上人。海陽妙光院。も。あ。も。さ
ち。底。水。朱。下。教。命。た。り。

顯寺

379大石

無永年中。連立

古山門院文治十三年。奉也。本建立。大
岡山日津上人。海陽。本。被。も。と。尼。が
縫。本。醫。寺。と。安。寺。本。屬。一。ま。る
も。り。ある。以。直。朱。下。教。命。と。享。保。又
年。六。月。廿。日。小。三。は。龜。翁。も。元。長。泉
列。く。米。城。乃。然。み。井。も。あ。ち。れ。於
て。自。害。一。臘。と。極。ぐ。天。井。み。かけ。つ
り。血。宿。大。坂。一。礼。ま。く。も。と。と。
も。以。十八。石。

光明院

380大石

無永年中。連立

永正年中。建三。山。心。地。院。や。上。人
海。陽。而。山。三。並。ち。の。ま。る。心。室。也。御。乃
乃。場。ち。り。ち。以。直。朱。下。教。命。天。正。十
年。六。月。廿。日。小。三。は。龜。翁。も。元。長。泉
列。く。米。城。乃。然。み。井。も。あ。ち。れ。於
て。自。害。一。臘。と。極。ぐ。天。井。み。かけ。つ
り。血。宿。大。坂。一。礼。ま。く。も。と。と。
も。以。十八。石。

櫛箭寺

381大石

無永年中。連立

の。魚。元。年。小。達。三。岡。山。本。住。院。日。深

上人源陽立がある乃あちこち欣ゆる
平處令たり

右十四ヶある天祚乃常乐寺三村の
金氣もと加く是と十六ヶもととつり
えりへりれあ家みどりてを產ね
まきゆくは哉一もうあれ右下
も八百廿石九千石

勝國院

山東下處令右の上
ある八百廿石

承保五年か建立間日塔傍而も
建立乃極まゝ袖瓦常樂院也代ひ云
寔體乃奇とぞりびちふ大樹森然
一根りあるニ二間をす根より三間二
寸枝本木十三枝希代乃強勢
異之三十年六月か安康之地と也
ましくくある故附之

墨懷

外國院嚴光庭史体墓 三母

又法名龍音寺殿以嚴實休ト号

小野方信院

西野寺 三百石

文治本中不勝本因院と云ひれり
兩山上ノトリ入世乃新躰蓮如上人
信證院ト号スヒ傳作トモア並院七
達立ノ列信院院と号トノ信
系清乃修滿とぞり首乃和るを
雪済立より是今にテノ由
信院セクノ今乃其多ハナ十二代准
上人乃自ノ前モセリノく也足の裏
小池判牛モく遙トとを直角ノト
波ミス今内直雲本安堂せり山本
三百石の向二百八十石の衆列尾村
所ト一千石の城外山本乃御モく年
納をうちへ納所と

右十六ヶ在芥谷又二ヶちと入大庭
ち櫻蓮社トモト入ケも此朱引
是とぞてなり

南浦方信院

あがれ寺

慶長奉中江西鶴寺二代登峰と
云志用山上ノトリ十一世乃本院院
上人乃法號云嚴如上人本が取らし監
ヒ信作トモア本安堂院院と云
も法興郡ト上人みぞり信院焉乃

名場とかせり首乃院号と今ふぞりて
使用心地やもひ大師乃他乞
と詔失立く來也 お辭マサニがる十一雨

専穴マツナカ

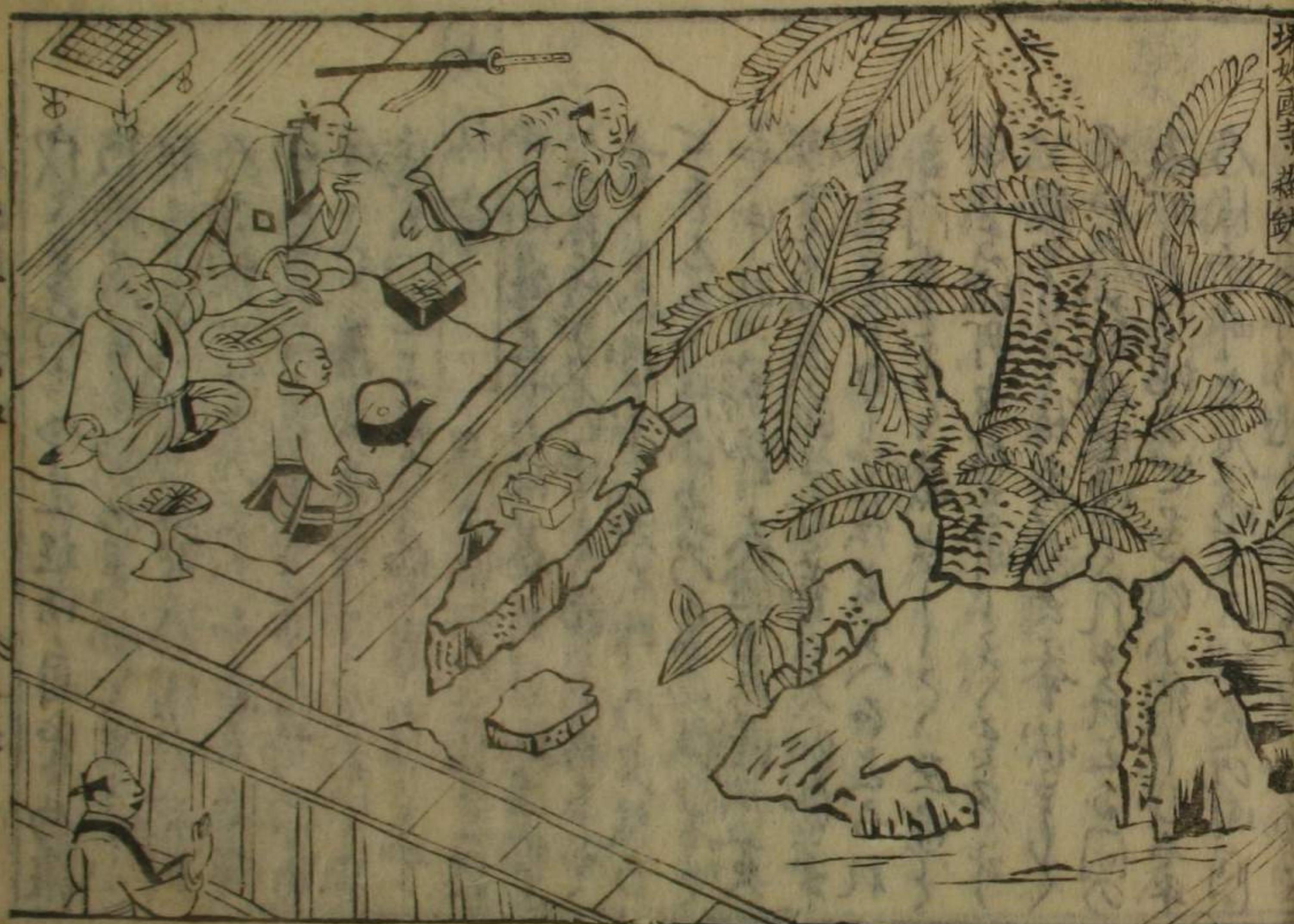
古松小記と努力を協へ四鬼
勢立マツタチとある如ひマサニす

専陰マツヨミ

永禄元年小玄臺上人

乃開基たりひよ人生三度詳りかす
天性醜ぬやて耳目乃福不記勝
ちよへられす一代乃多業化舟又
暴廢マツバフ建造乃切是マツシテ志より泉列マツリる
島壠西向マツシタハシ及び繊井村マツイ村名稱マツシテる
ちばりマツバリ山列マツリふはう源平等マツシテる
再興マツカヒ一 楠津マツツ大坂一心マツシタハシも乃零
属マツシテ長建マツジヤク一マツシテあもひよ人六十
ゆく達立マツタチと並立マツタチりマツシテ法海母
に乃行立マツタチし行住マツジヤク外會松三昧マツシタハシ
入マツス一マツシタハシ小天正マツシタハシ年十二月マツシタハシセセ
久マツシタハシの通經マツシタハシと持口マツシタハシお念仏诵文マツシタハシ
塔座合掌マツシタハシ一 嘉秋マツシタハシ八十二歲マツシタハシ而
入寂マツシタハシ一心マツシタハシ再興マツカヒ乃切修マツシテり一時
追持マツシテ也マツシテ感マツシタハシて一心マツシタハシ寺

螺妙國寺マツシタハシ蘿缺



伐と多持せるえ忍而自争乃雖
彼乃名号とめら更幅と玄義小
號よりあらば居号乃謂れ捺列
乃ち就一心も乃不小あせり毎年
正月廿二日より開きより後人か
對じ慶長年中よりえね軍前
康云と上源ノ小使より之を

小林寺

後醍醐天皇ひうに御

中小達立せり用基桃源和尚釋
ハ小林氏すくにゆくゆくゆくゆく
書一一小枝庭廣文師乃小林ち
と表志く假小夕乃字小波切と
名中はハ察野太波も乃姓小波
極院乃東流より首合方ハ大伽藍先
境内廣らと伝出之へてよとられ
る門をとぞく滅々一と至處と
あり北町又林町とくとく名付
とむそりを假秀吉と奉狀まし
て布乃萩林とゆきれとちの
又町より北又とあひ小納しひと
くは北町乃北ふとくあるとくの内
乃枝院町中乃北す乃故の内因
きけり又は北以耕雲庵ふつゆ
約物乃布のを毛太もあせり
より合ひゆきりとづく

榮山妙堂

涉陽妙能ある

未ち開山日英上人をり天正年中
小唱法師來く中興す又あひ小
日龜上人乃自筆乃石塔を故小也
塔小石塔乃も丸多りびと人あひ
弘通乃時海上やく波乃西に經日
とまちては小ゆゑとく清ぎす
之底石塔あらう圓く七不思議
うちもや今は石塔もモ一基をう
すと合ひゆきりとづく

光明山了光寺

開基年代未詳

中古源陽妙能光明山をり開基
久今小寺有未ノ九と存す是
が因くあらひも又是寺と呼すが
山上人乃お達乃本教とくありに
善秀法師ふ附院あくは不外
久今人三百七代正統町院は妙能
と本教作ありくを跡ふくら強
て取も此跡をもんとく上人乃
一枚起居と霞奈ふわとげ

小源を名のるの爲着秀小源てある
かきうるひく渴仰やうやくえんかり
燒れたいすとどちもかほりと歎きと
今れ紙かわり一くび或和乃憂中
ふよ人より山へ云々乃以ひ縁とゆく
ひそく多きを難日めくさく
一傍似像とお來て着秀小源
勤乃恭弱色くまう御 三後七年
經く承保十一年六月廿一日乃ゆう
そよ齋麻乃中も鑿まれるか
東へ堺乃よ若小すと見え
不齊部りあらくはむとも五六
まんす若秀わされ累然涙傾
涕て急らむ方をくねくね久
えんうへはきく如く隨喜感歎
し余少々一むるやれべくくまく
參下めうて名ある麻へて官
梓ひ身乃所ひり前志心傍知乃身
乃善根のあり小盆也ニモと他り内
千秋乃多害と多き垂び小西經を
うて中も乃山房内小とありてあ
麻あら納り多セうりもととや
勝利生乃ましくも多う勝利生
うすはもじめの遍思店ありりと
をも寛文年中小弓えもと改め
又山三十三世乃上へえぬ山と名
付たり

龍谷山祥雲寺

寃永二年小建立

開山次第和尙は紫聖大師もあらまち
すり煙那ハ若民の安乃志死へ度あ
小寝候二十樹好あり人よりれもさ
き丈八尺余及びて少く氣人の奇況
足りず焉ち庵威開臺乃羽日當
燒乃新判史石河太作也勝心ほゑ
とせくねえ縁とのべ和尙一首と紙

自らの心の風情の面カシヨウをひそめがゆん
聲ヨシノ序和尚和額セイシキ

聖武天皇
勝寔

天皇皇后乃祖と云々 大和の最若
ちと建造ノもち主と人少承
國、小野も皆ち公建ニクハ尙
ちんを立充中一ゆりと記孫少之
えも

東光

用基へ伏氣ハタマツをもるハ某原也來
キモリ伏氣ハタマツ海中シマノ小光コヒカリ出伏也
凡そ正トシから御ミササギ也カタマリてひよる像
とほ経ハタマツてハタマツ小毛コモとハタマツひちとハタマツ之セ
もとや世人セイジンの素シロ師シヨウと云ハタマツこれ御ミササギ
首乃用基ハタマツ蘇セシメ濟セシメ也カタマリ

も乃玄翁上人より天正年中小燃
蓮社寂翁上人中興とかあるが見え大
師乃すみ寛下シラフ伏毛九郎ナウロ小宗仰
ゆるへき日松師也あこだこすの宿豫
すりえ來へ奈良寺乃はちいさくあり
と承認奉中小あちに安樂す海陽
省恩院乃まも

卷長奇

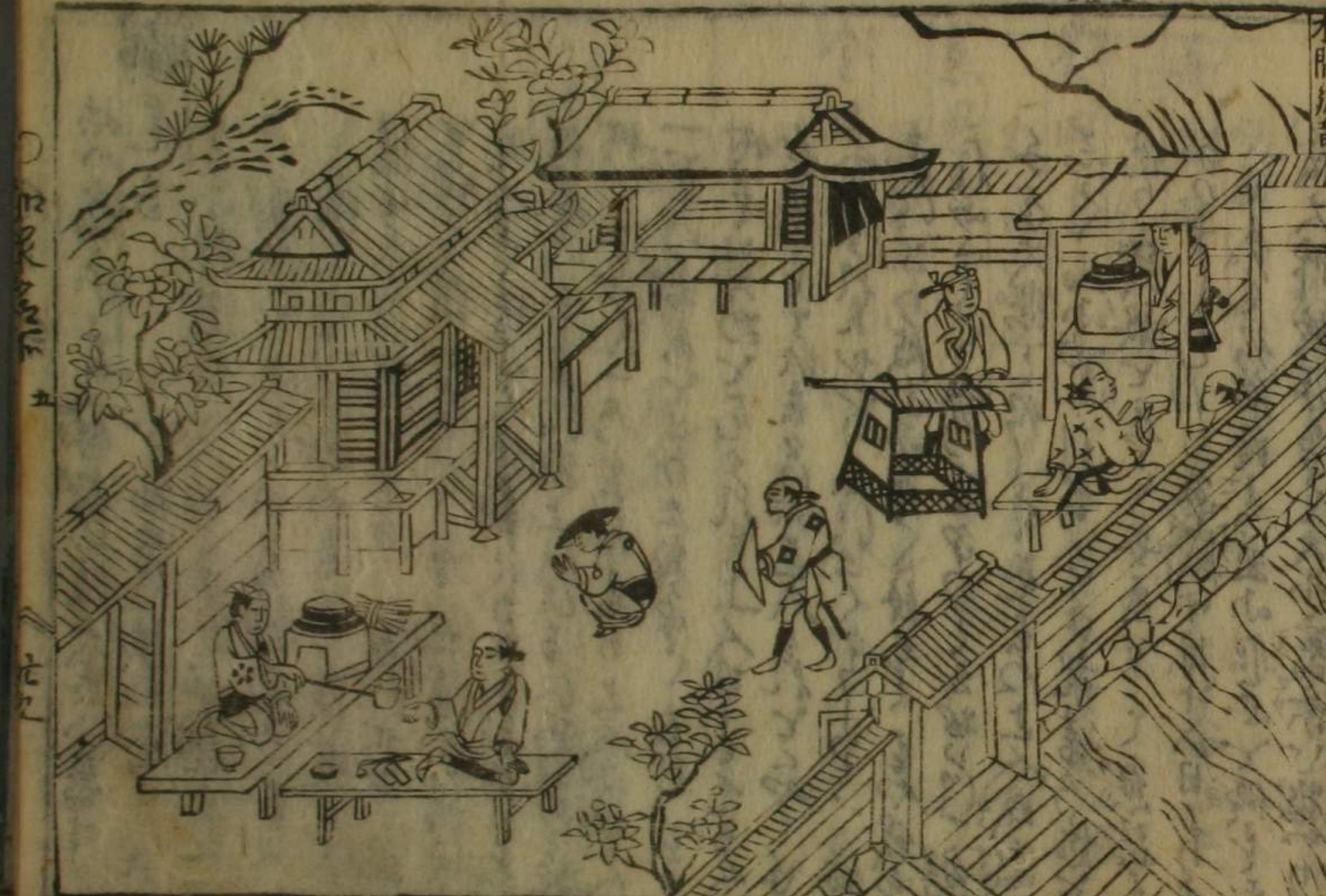
上元年正月六日承運
作事是す改勝ひ定承八年辛未
十二月十日小夜あす引あちの新法
名義あちと服前用引賢通陽ニ大居
すと号す今やせり三好氏もじるがれ
ありはち中四もりの恩虎あちと承

開山の日親上人をりぬ陽か法も二箇
ちと同基一かくもちくに法もより七
年以あふあると新紫す純氣光か
法も乃圓履也とやしと久世紀度
乃内法もるふり令下とおもす熟考
弘通一うちほりほ花里を院山を
慕云乃流難かあひ禁獄セ
火ノ事へとすり熱病乃鶴と似マ多
疾ひともモア毫末も候まず全
祐寺カウトカウト
乃多病と感一也信ふ端沾よとて
ヤカウト病小奇代乃圓履也と
くけり山城乃ち松井法も下也
ももと感と感も下也

水間寺

聖武天皇乃古ニ至御基

高麗と開山乃祖とす天皇とあつ年の三
月初午乃日乃和室ノアリありに故也
大丈乃基也すとを是夏と文
在の御基師小令をとこれと
りあへりより御基泉列小どり
と高く山洞に入ひて十六日
御もと神教引れ大歎乃心と渡御
てこれと河基外附ゆり又行を乃掌
とかと切くたれと附らうてかく
法也渡乃警とかすゆく聲字と
既久の更食歌と梵利と云ふ
とる音と安樂一通り金帝釋菩薩の
見ゆくある山乃志目とさめの今今
少なり毎年初午小の男女各首のく
びすとほどく表張ひとされと
像教掌仏金利般若經等詳義乃头
室とあせられゆるゆる縦うて無事
中少六次小かまうる御礼とさけ室
也と持てて高麗山立院小道れを
來院掌もと巴陵院小後せりあり



模尾モウ

始ハ島家シマカミ有リ御ミ火ヒの役ハシメ天台テンテイ小属スモニす

中ナカ名メイ世セ代ダイ缺ハタキ時トキ天皇アマノハシマの此ハシメ

宇ハシメ引ハシメ海上シマツヨウ今ハシメ多ハシメ業ハシメ世セ就ハシメ業ハシメ產ハシメ

乃ハシメ化ハシメ小ハシメ人ハシメ福ハシメ也ハシメ燒ハシメ也ハシメ

乃ハシメ建ハシメ丈ハシメ六ハシメ乃ハシメ外ハシメ觀ハシメ乃ハシメ萬ハシメ像ハシメ及ハシメ象ハシメ文殊ハシメ菩ハシメ薩ハシメ。

薩ハシメ四ハシメ天ハシメ主ハシメ乃ハシメ像ハシメ及ハシメ安ハシメ至ハシメ並ハシメ世セ就ハシメ廟ハシメ

之ハシメ生ハシメ大ハシメ人ハシメ休ハシメ藍ハシメ佛ハシメ也ハシメ燒ハシメ也ハシメ燒ハシメ也ハシメ

之ハシメ生ハシメ大ハシメ人ハシメ休ハシメ藍ハシメ佛ハシメ也ハシメ燒ハシメ也ハシメ燒ハシメ也ハシメ

乃ハシメ基ハシメ内ハシメもハシメ寶ハシメ法ハシメ海ハシメ也ハシメ燒ハシメ也ハシメ燒ハシメ也ハシメ

乃ハシメ基ハシメ内ハシメもハシメ寶ハシメ法ハシメ海ハシメ也ハシメ燒ハシメ也ハシメ燒ハシメ也ハシメ

何ハシメ大ハシメ也ハシメ一ハシメ乃ハシメ象ハシメ來ハシメりハシメ上ハシメ人ハシメ休ハシメ也ハシメ燒ハシメ也ハシメ燒ハシメ也ハシメ

一ハシメ夏ハシメ之ハシメ也ハシメ一ハシメ日ハシメ白ハシメ色ハシメ也ハシメ燒ハシメ也ハシメ燒ハシメ也ハシメ

財ハシメ也ハシメ燒ハシメ也ハシメ燒ハシメ也ハシメ燒ハシメ也ハシメ

卷之三

泉引石

一体和高ハシメ

集ハシメ

和高ハシメ

吉林茶高ハシメ

高ハシメ

高ハシメ

高ハシメ

高ハシメ

高ハシメ

參國ハシメ

國ハシメ

國ハシメ

國ハシメ

國ハシメ

國ハシメ

國ハシメ

國ハシメ

國ハシメ

支紀本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

鑿雲寺ハシメ

雲寺ハシメ

雲寺ハシメ

雲寺ハシメ

雲寺ハシメ

雲寺ハシメ

雲寺ハシメ

雲寺ハシメ

雲寺ハシメ

也紀本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

也紀本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

也紀本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

也紀本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

也紀本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

本考ハシメ

也

後醍醐天皇乃西行び不也く富紙を
もひく所の名小弟く添紙と云ひる

せり

洪炮乃我船小舟く傍り

今或ハ承の七年小保もり始る。以ひ
甲列家より大承六年か云ひて御人御
之義へけむより毛芦様にて。かす
天文八年八月往テ大当役程大更役
久乃船尾赤尾木乃漆へ苗妻の大船
御本丸松中小蜜貢の婦年産御
と云ふ者也く被炮の祕佛と表名亦有
従事船共船垂附見三れと傳文。一當
諸乃役人橋店又三脚これと船幕
て甚く高四以流布すこれ洪炮也
驚鴻すり又大骨の強也ハ當時之越
舟と曳ひて子孫程在。入た通途
舟を精妙小舟より東興作舟乃此
上系と傳事一車り而ち半尺二人
三寸と系口一尺一寸也。丈四寸一貫
又百目乃木筒と不目小張上手も見付
下洪炮大筒をねどり。下木筒ハ
今紀列乃川舟小舟をとえも子孫相
傳也く余も久方乃所用とひづる列
小加川也と云ひり

古居船頭

勝船町乃而小貴

家あひゆく古居小く為てふも不牢也
船く折半ノ名也なり。世の船くめく
主室もす人うふも。孫経すほよ
町居立てとく。假地も汝は所勝町
乃勝江名也町ハ名と勝小船と云り
出黒庵丁

勝船庵丁多り。石下乃船也
乃石へ。こより房小松也。と云せむ
出之名くせり。石舟乃養生。衣。勝
甲仲船也

蒲宗藏と云り。九
数寄食船乃名人と称す

白船

勝乃小西。い乃何東

夫也乃六官。と云。丸小船法也。船く
船也。船也。もあら。延喜四年。宣葉

天井前梯

ひ梯ハ梯を引當接
ちく繋ハシヒモドハ梯えとひ子

本履

今町乃木履と上
あすとまの念とらうわいし

馬踏

尾城とらわと申ゆテ利休宮乃以

茅湯内村春那入乃め小泉履乃
裏みあらう足と付セ用ひひ

神松丸

あら高神松村乃
里毛り仰り出ぎる高祖也右例代

毎年

公方へ献上りありそ

鬼煎餅

日記一アヒムの総ヒカヒキに謂

年

と耳ハ糊目とつゝと之又えたら久
て忍ヒシテ小合もると尼ニ極

饅頭

饅頭と豆腐とどり鴨人ハ蒸餅と仙

被とあらと

被とあらと

鬼敷

佐吉太郎作乃社乃
あら海毛りわがる奥とあら矣と

云又

云又夜ハあら良乃夫乃あら矣と
夫夫りおもとひ梯列浦乃らうけ

梯系

梯梯乃梯列浦の梯網あるとひ多やりうん

金

金浦乃奥乃とひ多やりうん

金

金浦乃鐵橋とお傳と云あられあ

金

お傳くは書院鐵橋せりを代ふぞ
せるに筆を立てるぬを後毛切松屋藏

金

金入とくもやじひ人取年あさの生
保義度

世戸ノ保義度とく

之を後尾引ひえり御戸ゆく家
入と繩又怪勢ゆくも燒けたれ西
乃處示し云度と奈付罪せ一人
乃居たりも度と居付れ教誨也
未陽居れ无ゆくさんざりの又
去度とて及早御と云居分入室
あら居りとつり

ば他ノ財本此財と用ひ置財
者あり先祖より今三代小豆ひ葉之
古作経ヨリ
古作久野之ヨリ

天正ノ間の高麗人等が廣島に上り
全員反對の事務監視官ミツキ
計へ竟末年中
小糸若小糸往す

後人中民も義補のことを「利休小姓」と號ふ。後生圓小姓内侍、左近やと
立りを子孫慶勝、慶安、慶喜、慶蕃

雜笑庵本細之
雜笑庵津南と号り
生國八紀列雜笑乃往人考後寫大
云修文源人乃ち高津小森作て
危木細工乃辰巳と抄せりもあら
照亭小名成吉子

慶長奉中の刀船
加美四郎
波たり二代みて業と都
船佐
かくまくら櫻たり云ふより能ゆく在
方み替りく又おもむれより

今乃壇壝處先祖
ノ首年ノ後左節ノノ元、廻上等
枝村乃人、古、猿丸、吉支乃未聽、
ノ久入文年中、小山津、滝村、小暮
モ後居て紀乃、より難か入情と取め
出、意、少々、之、號也、ミ、最、ト、御神、法事
ハ、高、豪、一、世、不、廢、く、用、ろ、灰、少、今、少
ミ、子、孫、ね、傳、祭、す、承、應、甲、午、小、安、信、此
所、ナ、リ、天下、一、乃、美、琴、ツ、ヒ、舞、又
延、慶、七年、ノ、本、願、院、モ、リ、ガ、紙、狀
ニ、吸、石、供、給、ト、号、す。

天川多子紙 大きな草履 常磐松
上村筆 玉尾瀬下 長面千絵
義教 鴉油の湯 菊田たどり

右和泉四

右和泉國の頃も塔小猪等と
著く般の小糸と只と世記ち
りと主とく足とゆと被く
乃ひりとしらへては坐られ
る能作つともあらわんやう
ゆすはれとせあすま
あれよとゆなり

